

がん教育等外部講師連携支援事業 事業成果報告書

1. 事業の具体的内容について

(1) 自治体における取組

① 協議会について

1. 構成員

全員で 14 人

内訳

- (委員)
- 医療関係者…拠点病院（放射線治療科）医師 1 人、がん専門相談員 1 人
 - 学識経験者…大学准教授 1 人
 - がん経験者…がんピアサポーター 1 人
 - 学校関係者…高等学校長代表 1 人、中学校長代表 1 人、養護教諭代表 1 人
- (事務局)
- 県教育委員会…保健体育課長 1 人、健康づくり推進室 5 人
 - 県知事部局…健康福祉部健康推進課がん対策推進室 1 人

2. 開催時期、検討内容

	期日	内容
第 1 回協議会	令和 5 年 11 月	・今年度の事業説明 ・今年度の取組について
第 2 回協議会	令和 6 年 1 月 16 日 (火)	・今年度の事業報告 ・がん教育推進チラシ (案) について ・今後の課題等についての意見交換

② 教育委員会としての取組

1. 「学校におけるがん教育推進チラシ」の発行

今年度は、具体的ながん教育の進め方についての参考例を示したチラシを作成した。来年度は、これまで作成した「学校におけるがん教育の手引」「学校におけるがん教育の Q&A 集」と併せて、推進チラシも活用して更なる啓発に努めていきたいと考えている。



2. がん教育研修会の開催

日時	場所
令和5年11月30日(木)	出雲市立湖陵中学校
令和5年12月1日(金)	出雲市立多伎中学校



目的：学校での外部講師を活用したがん教育を公開し、参加者が聴講することで、学校におけるがん教育への理解を深め、がん教育の充実に資する。

対象：小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、特別支援学校の教職員

外部講師によるがん教育に関心のある方（学校医、専門医、がん患者・経験者等）

内容：「いのちの授業」 講師 NPO 法人がんサポートかごしま 理事長 三好 綾氏

③ 保健部局や地域の専門機関等との連携

「外部講師リスト」の活用

令和元年度から作成している「外部講師リスト」は、毎年度始めに、がん対策推進室から発出される。

「外部講師を活用した大人へのがん教育推進事業」の活用

がん対策推進室が行っている本事業は、学校が保護者を対象としたがんに関する研修会や講演会を開催する際、講師選定や費用を支援する事業である。外部講師リストで講師を選定し、本事業を活用してがん教育を実施する学校もあった。

(2) 協力校における取組

出雲市立湖陵中学校

出雲市立多伎中学校

○外部講師を活用したがん教育

- 1 対象学年 全学年
- 2 外部講師 NPO 法人がんサポートかごしま 理事長 三好 綾氏
- 3 講演テーマ 「いのちの授業」(人権集会の中で実施)
- 4 目標
 - ・がん患者さんの体験を聞いて、がんの知識、がん患者さんへの理解を深めよう
 - ・いのちの大切さについて考えてみよう
 - ・周りにいる人たちの大切さについて考えてみよう



出雲市立第二中学校

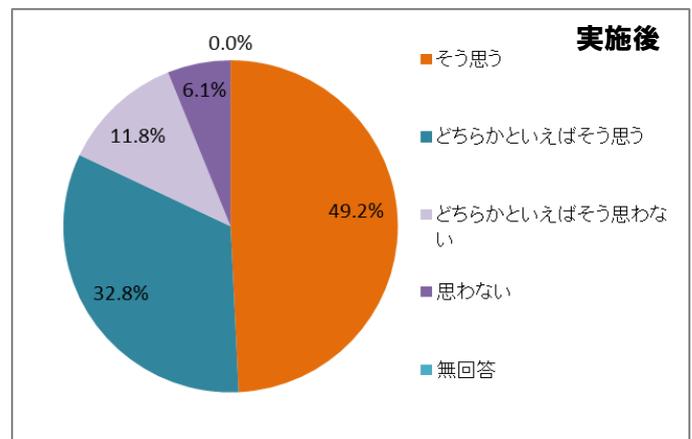
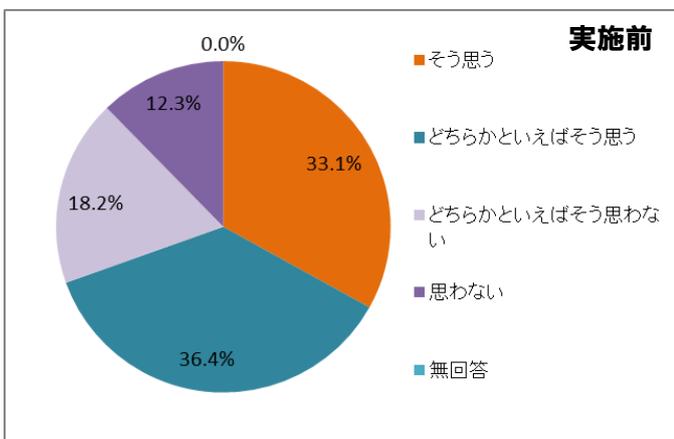
○外部講師を活用したがん教育

- 1 対象学年 第3学年
- 2 外部講師 島根県がんピアサポーター 若狭雅子氏
- 3 授業テーマ がん経験者の生き方から学ぶ
- 4 目標 若狭さんの生き方に触れ、自分の生き方について考える。

2. 事業の達成度について

<協力校における成果>

Q.がんになっても生活の質を高めることができる



今回、出雲市立湖陵中学校と多伎中学校では、人権集会の中で NPO 法人がんサポートかごしまの三好綾さんによる「いのちの授業」を開催した。

三好さんご自身のがん経験をもとに語られた思いや、一緒に活動されていたかみづるさんが、亡くなる直前までやりたいことに挑戦されたお話は、生徒の心に響きました。講演後の感想からも、一人一人がいのちについてしっかり向き合い、考えた時間になっていたことが窺えた。

生徒の感想（出雲市立湖陵中学校）より

今日の講演会で、私たちがいま、普通に生活できていることは、すごく幸せなんだなと思いました。

かみづるさんの短冊のお願いの「もう少し時間がほしい」という言葉がとくに印象に残っています。やりたいことを一つずつ叶えられたかみづるさんは、とても素敵で、強くて、かっこいいです。消えちゃいたいというふうに思ってしまっただとしても、かみづるさんの「あなたはあなたのままで金メダル」という言葉を思い出して、頑張りたいです。

また、死に関連する言葉は使わないようにし、誰かに助けを求められたら、その人にしっかり寄り添える人になりたいです。

生徒の感想（出雲市立多伎中学校）より

今まで何度かがんや命についての授業や講演会がありましたが、一番心に残る、一生覚えておきたい講演会でした。私も一緒に住んでいたおじいちゃんが肺がんになりました。その時は、本当に心配で不安でしたが、手術をして今は元気です。今回の講演で聞いたように「こうして元気に過ごしているこの当たり前が幸せ」だということや、「生きていだけで金メダル」という言葉は、すごくたくさんの人を救っていける言葉だと思いました。

今後、つらいことや自分を追い込むことは年を重ねるうちにあるかもしれないですが、三好さんやかみづるさんの言っていた言葉は絶対に覚えておきたいです。

<がん教育研修会における成果> 参加者の感想より

がん教育と聞くと、「生活習慣が…」 「死因の第1位…」 など知識中心の授業になりがちだと思うが、今回のような命の大切さからの語りかけ、学びは、聞く側からすると聞きやすく、心に残る時間になると思った。今後、この視点で取り入れたい。

がんという病気を通じて自分のいのちに向き合う講演会で、中学生の思春期に「あなたのままでいい」というメッセージ性の強いものでよかった。また、外部講師の講演会を行うまで内容がわからないので公開してもらい、よかった。

初めて当事者の方のお話を聞いた。難しそうだと思っていたが、いのちの教育なんだとわかった。取り組んでみたいと、少しハードルが下がった。

がんのお話を通して、子供も大人も自分の生き方や、生きることへの考え方を振り返るととても良い時間だった。三好さんの温かい話し方に引き込まれた。小学校でも人と比べて悩むことはたくさんあるので、「あなたはあなたのままでいいんだよ」と伝えられる雰囲気成全教職員で作っていきよう、今日の講演会を共有したい。

教科書でがんについて知識を学ぶだけでなく、実際に患者さんから話を聞くことで、より自分事として捉えることができるんだなと思った。

3. 今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題など）

- ・がん教育の実施状況、外部講師によるがん教育の実施状況、外部講師リスト活用状況等については、毎年度末に学校へ調査を実施し、実態把握に努めるとともに、今後の方向性を探っていく。
- ・これまで作成してきた「手引」「Q&A集」「推進チラシ」などを活用し、がん教育の進め方について、好事例や参考例を示しながら、さらなる啓発に努めていきたいと考えている。
- ・がん教育研修会を開催しても、参加人数が少ない傾向にある。引き続き、管理職や保健主事、保健体育科担当教職員、養護教諭等の悉皆研修等を活用して、学校におけるがん教育について理解を図っていく必要がある。
- ・外部講師リストの中には、学校での授業に参画したとのない外部講師も多い。引き続き、がん対策推進室と連携を図りながら、外部講師を対象に、学校におけるがん教育の進め方について理解してもらえよう、働きかける必要がある。
- ・がん教育推進協議会で、様々な立場からの意見をもらい、方向性を確認しながら進めてきた。助言をいただきながら、さらなる質の高いがん教育を推進していきたいと考えている。

4. モデル校以外での取組について（課題や今後整理すべき事項など）

- ・外部講師を活用しなければならないわけでもないが、活用した方が良い効果があることは、協力校の成果からも明らかである。引き続き、外部講師を活用することの意義を伝えていくとともに、活用するときは、学校が主体であること、打合せや振り返りをする必要があること等、外部講師の活用方法について、外部講師リストとともに周知していく。
- ・協力校以外でも取組が広がるように、研修会等の機会を通じて周知していく。カリキュラム・マネジメントを取り入れたがん教育の実践を推進していく。
- ・協力校以外の好事例も教育委員会で把握していき、県内に広めていく。

がん教育等外部講師連携支援事業 事業成果報告書

1. 事業の具体的内容について

(1) 自治体における取組

① 協議会について

1. 構成員 20人

【内訳】

県医師会代表1人、がん専門医1人、大学准教授1人、県薬剤師会学校薬剤師部会代表1人、がん経験者1人、PTA2人、校長4人、保健主任1人、養護教諭1人、県健康福祉部1人、県教委6人

2. 開催時期、検討内容

○ 第1回山口県がん教育推進協議会（令和5年7月13日）

- ・ 学校におけるがん教育の動向について
- ・ 学校におけるがん教育推進事業の推進計画（案）について

- ・ 学校におけるがん教育推進事業の評価について
- ・ 外部講師の拡充について
- ・ 情報交換

○ 第2回山口県がん教育推進協議会（令和6年1月25日）

- ・ 今年度の学校におけるがん教育の取組について
- ・ 今年度の事業実施校の取組について
- ・ 今年度の事業推進の成果と課題について
- ・ 協議「学校におけるがん教育の推進に向けて」
- ・ 協議会委員によるがん教育に関するアンケート



② 教育委員会としての取組

1. 事業実施校（モデル校）に外部講師（医療従事者、がん経験者）を派遣（公開授業・講演会の実施）

2. 学校におけるがん教育研修会の実施

○ 令和5年度学校におけるがん教育研修会（山口県庁）

- ・ 開催日 令和5年8月10日（木）
- ・ 対象 事業実施校担当教職員、外部講師
- ・ 内容 所管説明、事業説明、グループ協議

○ 令和5年度学校におけるがん教育研修会（岩国市・和木町）

- ・ 開催日 令和5年10月25日（水）
- ・ 対象 養護教諭等
- ・ 内容 講演・演習



3. 学校におけるがん教育に係る外部講師拡充のためのオンライン説明会

- ・ 開催日 令和5年12月20日（水）
- ・ 対象 医療関係者、行政関係者、がん経験者等
- ・ 内容 所管説明、事例発表、質疑応答

事例発表「学校におけるがん教育について外部講師として伝えたいこと」

事例発表者 山口大学医学部附属病院腫瘍センター 准教授 井岡 達也 氏

事例発表者 ポポメリー 代表 藤本 育栄 氏

4. 実践事例の周知

- 今年度事業実施校（モデル校）の実践事例を Web サイトにて紹介

③ 保健部局や地域の専門機関等との連携

1. 県健康福祉部医療政策課との連携

- 山口県がん教育推進協議会の委員を依頼（事業の円滑な実施に向けた連携・協力）
- 外部講師派遣に向けたがん診療連携拠点病院との連絡調整
- がん診療連携拠点病院やがん患者団体、市町がん対策担当課への情報提供
- 山口県がん対策協議会への出席

2. 市町がん対策担当課との連携

- 本事業公開授業・講演会や研修会への参加

(2) モデル校における取組

1. 小学校（2校）

○ 防府市立向島小学校

- ・ 日 時 令和5年11月30日（木）
- ・ 学 年 小4～6
- ・ 外部講師 防府リボンの会 代表 宿谷 三恵子 氏
- ・ 内 容 「がん」という病気について学ぼう
 - 事前アンケート結果をふり返りながら、「がん」という病気についての基礎知識を学ぶ
 - がんに関連したクイズをする（日本の現状やがんの種類、定期検診の大切さ等）
 - がんを経験された方の思いを聴く
 - 振り返り



○ 山口市立島地小学校

- ・ 日 時 令和5年12月1日（金）
- ・ 学 年 小5
- ・ 外部講師 山口県立総合医療センター がん看護専門看護師 山本 知美 氏 内田 恵 氏
- ・ 内 容 あなたと大切な人の命のために がんについて学ぼう
 - がんについて正しい知識を得る（がんに対するイメージ、がんの罹患割合、がんの原因・予防等）
 - 児童同士で健康を守るために必要な行動を考え助言する（医師と患者の立場でロールプレイング）
 - まとめ、振り返り

2. 中学校（3校）

○ 宇部市立西岐波中学校

- ・ 日 時 令和5年10月26日（木）
- ・ 学 年 中2
- ・ 外部講師 ポポメリー 代表 藤本 育栄 氏
- ・ 内 容 がん患者と共に生きる社会
 - 外部講師の話から印象に残ったことを共有する
 - 身近な人ががんになったとき、自分にできることは何か考える
 - がん患者が暮らしやすい社会とはどのような社会か考える
 - 外部講師の話やグループで話し合ったことを振り返り、大切だと思ったことをまとめる



○ 山陽小野田市立高千帆中学校

- ・ 日 時 令和5年11月13日（月）
- ・ 学 年 中2

- ・ 外部講師 山口大学医学部附属病院 腫瘍センター 准教授 井岡 達也 氏
- ・ 内 容 がんの基礎知識～正しい知識と行動で自分を守ろう～
 - 講演（がんの原因、がんの現状、がんの種類、がん治療の支援、緩和ケアについて等）
 - 講師の実体験から思うこと、願うこと

○ 周南市立須々万中学校

- ・ 日 時 令和5年11月30日（木）
- ・ 学 年 中2
- ・ 外部講師 徳山中央病院 がん薬物療法看護認定看護師 國次 葉月 氏
- ・ 内 容 がん治療の現場から伝えたいこと
 - 前時の保健の授業（文部科学省モジュール1～5の内容）を振り返る
 - がんの治療について知る
 - がん患者の気持ち、がんになると起こる問題について考える
 - がんはさまざまな専門家がチームを組んで治療することを理解する
 - がん患者の手紙から患者の想いを知る



3. 小中学校（1校）

○ 萩市立見島小中学校

- ・ 日 時 令和5年9月25日（月）
- ・ 学 年 小6、中3
- ・ 外部講師 元プロフットサル選手 中平 雄介 氏
- ・ 内 容 がんがどのような病気か理解し、その発生要因を知ろう
 - がんについての知っていることやイメージについて話し合う
 - 配布資料から、がんがどのような病気か理解する
 - がんが発生する原因が何かを考える
 - 自他の生活習慣とがんについて考える
 - 本時の学習の振り返り、ワークシートに記入する
 - 授業後、講演会（がんになったときの様子や心境、治療時の想い、治療後の生活等）
 - 質疑応答



4. 高等学校（2校）

○ 山口県立美祢青嶺高等学校

- ・ 日 時 令和5年10月11日（水）
- ・ 学 年 高3
- ・ 外部講師 山口大学医学部附属病院 腫瘍センター 准教授 井岡 達也 氏
- ・ 内 容 がん教育講演会
 - がんの現状、がんの要因・種類について知る
 - がんの早期発見・治療の重要性を理解する
 - がんの予防について知る
 - がん患者への理解と共生・緩和ケアを知る
 - がん患者はどんなことを考えているかを知る
 - 周囲（家族）ができるサポートについて考える



○ 山口県立防府西高等学校

- ・ 日 時 令和5年11月15日（水）
- ・ 学 年 高3
- ・ 外部講師 乳がん体験者コーディネーター 井上 裕香子 氏

- ・ 内 容 がんになって見えたもの～若年性乳がん体験者として
 - 乳がん罹患の経緯と現状
 - 乳がんについての説明
 - がんの早期発見・早期治療の重要性
 - 山口県の検診の現状
 - がん罹患して自分に起こった考え方の変化と生き方の変容
 - 周囲の人々と関係、とりまく環境の重要性
 - まとめ



2. 事業の達成度について

(1) 協議会の評価について

第2回協議会のアンケートで「協議会として十分な支援を行えたか」の質問に95%の方が「はい」と回答された。また、以下のような意見をいただいた。

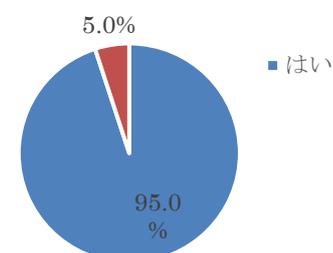
1. 「いいえ」に○を付けた場合の具体的理由

- 新たな取組で事業実施校が拡充しているが、外部講師を活用したがん教育実施校の割合はまだ低いため

2. 協議会の果たす役割として必要なこと

- 事業実施校の拡充に伴う継続支援
- 保護者に対するがん教育の参加促進及び参加できる体制の充実
- 外部講師拡充
- がん教育の意義や成果の普及啓発（ウェブページやICT・映像を生かした情報発信）
- 研修会の拡充

学校の取組に対し、協議会として十分な支援を行えたか。



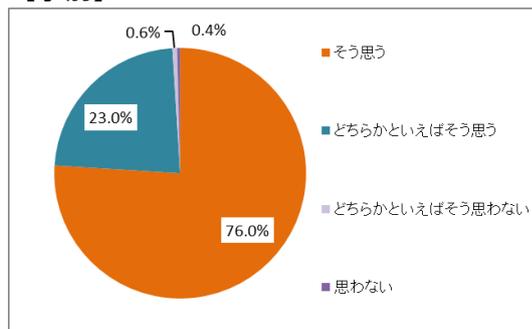
(2) 児童生徒の事前・事後アンケート結果について（無回答を除く）

1. がんの学習についてあてはまるもの

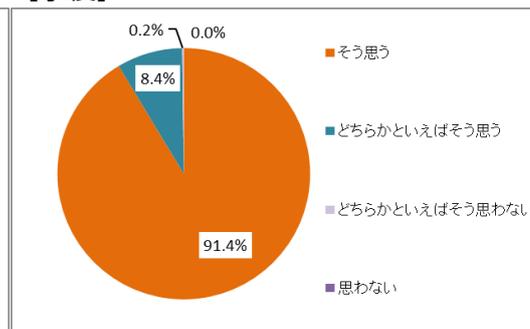
質問a「がんの学習は、健康な生活を送るために重要だ」では、事業実施前から「そう思う」又は「どちらかといえばそう思う」（以下、「肯定的な回答」と答えた割合は99.0%であり、児童生徒はがん教育の重要性を感じていた。その中でも、「そう思う」と回答した児童生徒の割合が76.0%から91.4%に増加しており、意識の高まりがみられた。

【質問a「がんの学習は、健康な生活を送るために重要だ」】

【事前】



【事後】



また、質問b「がんの学習は、健康な生活を送るために役に立つ」も、事業実施前から肯定的な回答をした者は98.8%と非常に高かったが、その中でも「そう思う」と回答した児童生徒が75.6%から89.5%に増加しており、学習の有用性を感じている児童生徒の割合が増加した。

2. がんについて当てはまるもの

すべての質問が「正しい」「誤り」の2択である。

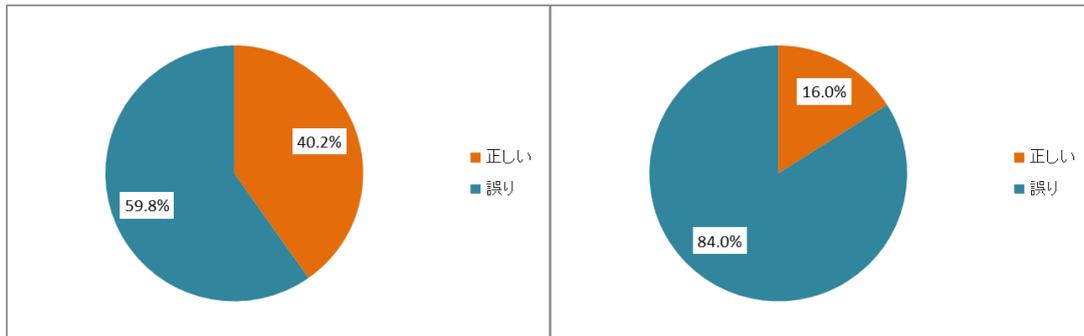
質問 a 「がんは誰もがかかる可能性のある病気である」、c 「がんは日本人の死因の第2位である」、e 「早期発見すれば、がんは治りやすい」、f 「体の調子が良い場合は、定期的に検診を受けなくても良い」、g 「がんの治療法には手術治療しかない」、h 「がんの痛みは我慢するしかない」では正しく知識を得ている回答の割合が多くなっていった。

特に、質問gでは20%以上、質問hでは15%以上と、正答率が大きく増加している。児童生徒のがんの治療法やがん治療における緩和ケアに対する理解が高まっていると考えられる。

【質問g 「がんの治療法には手術治療しかない」】

【事前】

【事後】



しかし、質問b「がんは進行すると、今まで通りの生活ができなくなったり、命を失ったりすることがある」、d「たばこを吸わないこと、バランスよく食事をする、適度な運動をすることなどによって、予防できるがんもある」では、わずかではあるが、誤答の割合が高くなっていった。授業の内容の一部が印象に残り、誤って理解する児童生徒もいると考えられる。児童生徒が正しい知識を理解するためにも、小、中、高等学校で、繰り返し、がん教育を実施する必要がある。また、児童生徒にアンケート結果をフィードバックし、正しい知識の確かな定着を図る必要がある。

3. がんについて当てはまるもの

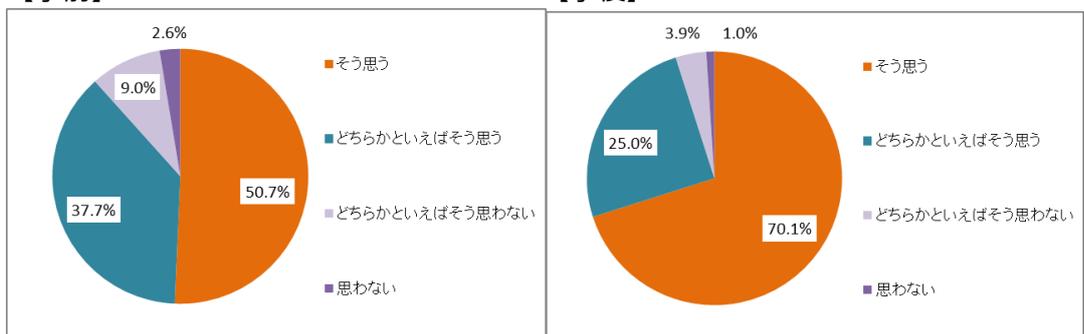
質問 a 「自分はがんにはならないと思う」、b 「将来、たばこは吸わないでいようと思う」、c 「日頃から、バランスの良い食事や適度に運動を行うなど健康な体づくりに取り組もうと思う」、d 「がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う」、e 「がんの治療法はいくつかあるが、医師が決めるものである」、f 「がんになっても生活の質を高めることができる」、g 「がんになっている人も過ごしやすい世の中にしたい」、h 「がんと健康について、まずは身近な家族から語ろうと思う」、i 「家族や身近な人が健康であってほしいと思う」、j 「長生きをするために、健康な体づくりに取り組もうと思う」のすべてにおいて、「そう思う」と回答した割合が増えている。

また、c、d、e、gについては望ましい回答をした割合が10%以上増加しており、特に、本県の課題であるがん検診の受診率に係る質問d「がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う」については、「そう思う」と回答した割合が50.7%から70.1%と19.4%増加した。

【質問d 「がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う」】

【事前】

【事後】



さらに、f「がんになっても生活の質を高めることができる」、h「がんと健康について、まずは身近な家族から語ろうと思う」については、望ましい回答をした割合が20%以上増加しており、がん経験者が外部講師として生き生きと活躍している姿や医療従事者が多くのがん患者やその家族と向き合ってきた経験からなる講話を受け、児童生徒の意識が大きく高まったと考えられる。

(3) 事業全般に係る成果について

1. 本事業実施校の拡充

昨年度までは、推進地域を指定し、その地域の小、中、高等学校で公開授業及び研究授業を実施してきたが、推進協議会の中で、委員から、より多くの学校で外部講師を活用したがん教育を実施できるよう、外部講師の拡充とともに、事業実施校を増加することについて意見があったことを受け、これまでの推進地域を指定する形から、県内全域を対象とした取組に変更し、広く本事業を展開した結果、事業実施校が8校に拡充した。

2. 公開授業等の充実

本県の強みであるコミュニティ・スクールの連携・協働体制を生かし、公開授業等を実施した結果、保護者はもとより、地域住民や市町がん対策担当課の参加もあり、学校におけるがん教育の理解促進につながった。

3. 研修会や説明会による外部講師の拡充及び資質向上

昨年度の説明会参加の外部講師の感想の中に、「情報交換する場がほしい」との意見があったことを受け、研修会の中で情報交換する場を設定したり、説明会における外部講師の事例発表を拡充したりした。このような取組の中、自身の資質向上や授業・講演会の充実に向け、他の外部講師の授業等の参観を希望したり、更なる情報交換の場を求めたりする外部講師もみられた。

また、オンライン説明会の開催により、事後アンケートにおいて「協力できる」と回答いただいた外部講師が多数おり、外部講師の拡充につながった。

3. 今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題など）

(1) 事業実施校の拡充について

外部講師を活用したがん教育の一層の推進に向け、更なる事業実施校の拡充に取り組む必要がある。事業実施校における公開授業等の開催に加え、保健主任や体育主任、養護教諭等を対象とした研修会における意義や成果を踏まえた所管説明等により、本事業の積極的な活用を図る。

(2) 授業・講演会の更なる充実

児童生徒アンケート結果を受け、一部ではあるものの、がんについての正しい知識の定着に課題がみられた。振り返りに注目した授業改善等を行うなど、事前・事後の指導の充実を図ることが重要である。

(3) 外部講師の拡充及び資質向上

外部講師からの意見を受け、研修会や説明会の中で情報交換の場を設けたり、希望に応じて外部講師がお互いの授業を参観できる機会を設けたりするなど、外部講師の拡充及び資質向上に向けた取組が必要である。

4. モデル校以外での取組について（課題や今後整理すべき事項など）

外部講師を活用したがん教育を実施した学校の割合は、国平均と同様、約1割程度と低い状況にあり、一層の推進に向けた取組が必要である。市町教委・学校・教職員に対する外部講師を活用したがん教育の必要性や有効性等を踏まえた研修機会の確保等、一層の普及・啓発を図るとともに、持続可能な推進体制の構築に向けて関係団体との連携を深めていきたい。

がん教育等外部講師連携支援事業 事業成果報告書

1. 事業の具体的内容について

(1) 自治体における取組

① 協議会について

1. 構成員

香川県学校医代表（小児科医）、香川県医師（呼吸器内科兼総合内科）、
香川大学医学部附属病院緩和ケア認定看護師、香川県小学校教育研究会（学校保健部会長）、
香川県中学校教育研究会（保健体育部会長）、香川県高等学校教育研究会（保健体育部会長）、
香川大学教育学部（大学教授及び准教授）、高松市保健所健康づくり推進課（係長）、
香川県PTA連絡協議会代表（副会長）、香川県看護協会代表（専務理事）、
香川県健康福祉部健康福祉総務課代表、香川県教育委員会事務局保健体育課（課長 外3名） 計16名

2. 開催時期、検討内容

○第1回協議会（7月12日：オンライン会議）

- ・令和4年度香川県教育委員会がん教育の実践報告
- ・令和5年度がん教育支援事業の説明

○第2回協議会（2月8日：集合型会議）

- ・令和5年度香川県がん教育ゲストティーチャー派遣事業の実践報告
- ・がん教育研修会（オンデマンド研修）の報告
- ・がん教育の成果と課題の報告
- ・令和6年度香川県がん教育ゲストティーチャー派遣事業（案）の説明

② 教育委員会としての取組

○がん教育研修会（オンデマンド研修）

本研修はがん教育の普及・啓発を図ることを目的とし、新学習指導要領に対応したがん教育の実施に向けて、教職員やがん教育の授業を行うゲストティーチャー（以下GTとする）等に対し、学校におけるがん教育を進めるための留意点や本支援事業の流れ等の説明、好事例紹介等を行う。

<第1回>

- ・日時：令和5年8月17日（月）～令和6年2月10日（金）
- ・対象：県内公立学校の教職員、GT、外部講師候補者、がん教育協議会委員等
- ・演題：「学校におけるがん教育の充実をめざして」
- ・講師：香川県教育委員会事務局保健体育課 学校保健担当指導主事
- ・内容：学校におけるがん教育の基本的な考えや目標、新学習指導要領におけるがん教育の取り扱い、授業で使用する教材等、GT派遣事業及び学校との事前打合わせの流れ 等

<第2回>

- ・日時：令和5年12月22日（金）～令和6年8月31日（金）
- ・対象：県内公立学校の教職員、GT、外部講師候補者、がん教育協議会委員等
- ・演題：（第1部）「がん教育 いのちの授業①」 （第2部）「がん教育 いのちの授業②」
（第3部）「がん教育の模擬授業と解説～解説編～香川県のみなさまへ」
- ・内容：がん経験者が行うがん教育の模擬授業やがん教育の授業をする際の留意点について

③ 保健部局や地域の専門機関等との連携

○香川県看護協会との連携

前年度中に、香川県看護協会と本事業の流れや派遣調整方法等について打合せを行い、GTの候補者として、県内の認定看護師や専門看護師等を紹介してもらった。

○香川県健康福祉部健康福祉総務課との連携

がん教育の普及の一環として、香川県が作成した「がん教育の手引き」を県のホームページ上に公開することとし、健康福祉総務課に依頼した。

(2) モデル校における取組

<事業活用希望調査>

県内公立学校に対し、がん教育の授業や研修会等にGTを派遣する事業案内を行い、希望調査を行った。がん教育の授業は、香川県が作成している「がん教育の手引き」や文部科学省の教材等（併用可）を活用し、実施することとした。昨年度の課題であった募集の締切りを前年度末にすることで、学校の年間計画にがん教育を位置付けられるように工夫した。

【応募期間】 令和5年3月8日（水）～3月22日（水）

【派遣期間】 令和5年8月21日（月）～令和6年2月2日（金）

【応募校数】 21校

【実際の派遣実施校数】 11校（小学校 4校、中学校 6校、高等学校 1校）

【派遣を見送った学校への対応】

- ・昨年度香川県教育委員会が作成した動画教材等を紹介し、学級担任等による授業の実施を依頼

<事前打合せの充実>

授業者とGTは、県教育委員会が公開しているがん教育研修会（第1回）を視聴してから事前打合せをするよう、事業実施要項で示し、がん教育を行ううえでの配慮事項や教育的位置づけ等、基礎的な知識や事業の流れを両者が抑えておくことで、事前打合せでは、それぞれの役割分担や配慮を要する児童生徒の対応等に重点をおくことができた。

<さぬき市立津田小学校> 6年生で実施

	GTとの事前打合せ（学習の流れや役割分担の確認）
	保護者への意向調査（アンケートにより要配慮児童の確認） 児童への事前アンケート（がんについての知識や認識の確認・集計・学習内容への反映）
12月 授業日	事前指導（担任単独での事前指導【体育・保健領域】病気の予防） 本時【学級活動】 事後アンケート

本時では、担任がクラスの実態にあった授業展開を、養護教諭は板書の補助や配慮を要する児童の支援を、そして、GTはがんの正しい知識について説明をするという役割分担をした。



養護教諭

ゲストティーチャー

担任

授業の中で、子供たちが自由に GT に質問する時間を設けたところ、友だちの質問に追加して質問をしたり、GT の説明から浮かんだ疑問点を聞いたり、と、どんどん質問が出て、子供たちは GT の話を一生懸命メモしていた。



どうやってがんを治すの？



がんの治し方

- ・がんは痛みのしょうじょうがすくないため、早めにけんしんを！
- ・がんによって治りようのし方などがちがう。

<香川県立高瀬高等学校> 2年生で実施

事前アンケートの集計を生徒保健委員が行い、授業中に報告し、教員（保健体育科教員）や GT が補足説明をしたり、コメントしたりしていた。

授業中も ICT を活用し、その時点の意識調査を全体に行い、その場で集計し、生徒へフィードバックをする等工夫が見られた。

GT はがん患者やその家族を看護師としてどのように支援するか体験談を話し、がん患者やその家族を支えるために何ができるかと生徒に問いかけていた。生徒は自分なりの考えをまとめ、時には友達と意見を交わし、がん患者を支える社会とはどんな社会か考えを深めている生徒もいた。

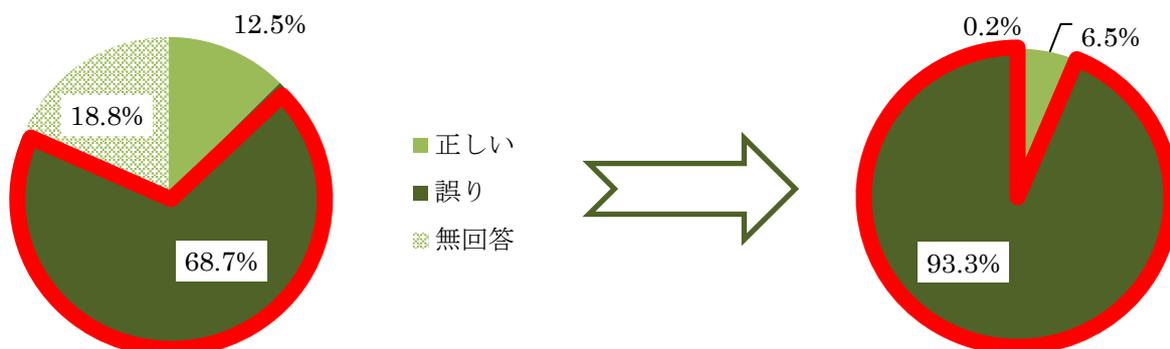
授業後、将来医療者になるために今何が必要か、自発的に GT へ質問をしている生徒もいた。



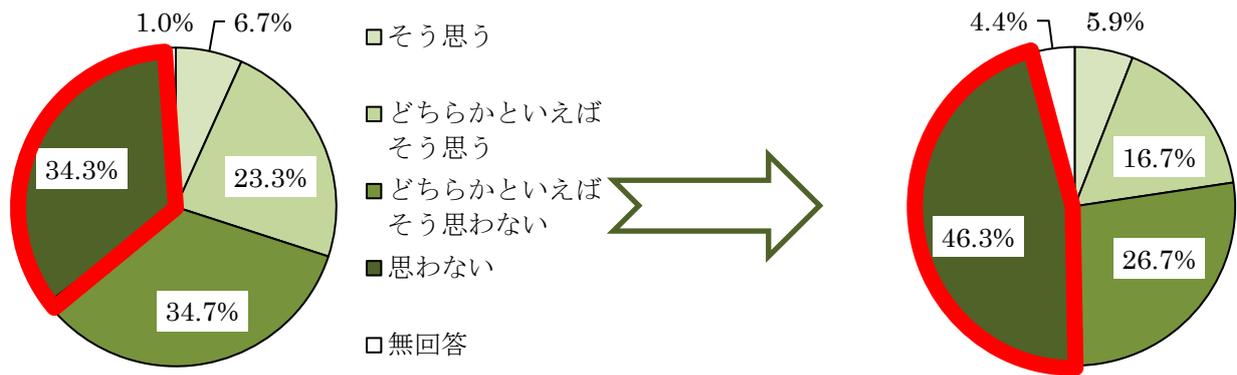
2. 事業の達成度について

GT（看護師）は、授業の中で、「がんは生活習慣だけが引き起こすのではなく、様々な理由がある」「誰にでもがんになる可能性がある」「がんの治療は手術だけではなく、自分に適した治療方法を医療機関で相談できる」など、経験談を踏まえ、説明していた。児童生徒に行ったアンケート結果から、授業後に以下のような意識の変容が窺えた。

Q「がんの治療法には手術治療しかない」



Q「自分はがんにならないと思う」



GT (看護師) からの説明を受け、様々な治療方法があることやがんについて自分にも罹り得る病気であるという認識が芽生えているようであった。

3. 今後の課題及びその取組の方向性 (今回の事業により新たに見えた課題など)

- 1 学校への派遣期間の調整や依頼病院への手続き簡略化
 - ・学校の負担軽減を図るため、令和6年2月に募集をかけるとともに、依頼病院に対しては、謝金規定や支払先の確認等を事前に周知することで、手続きの簡略化を図る
- 2 全ての希望校へ派遣が可能な体制整備
 - ・GTの謝金規定等を見直し、予算確保を行い、派遣校の増加を図る。また、予算以上に学校からの応募があった場合を想定し、がん経験者や専門医等にGTを迎える等、体制整備をしていく
- 3 GTの増員と候補者への研修機会の確保
 - ・増員したGTに対しても、研修機会を確保するとともに、事務局が相談窓口になり、支援・調整を行う
- 4 「がん教育の手引」の更新
 - ・香川県のデータ更新とともに、手引きの全体的な更新も視野に検討していきたい

4. モデル校以外での取組について (課題や今後整理すべき事項など)

がん経験者の授業参加

- ・県内外のがん経験者や関係団体から学校での授業に参加したいという声が届いているため、まずは県教育委員会が調整を行い、体制を整備していきたい

がん教育等外部講師連携支援事業 事業成果報告書

1. 事業の具体的内容について

(1) 自治体における取組

① 協議会について

県内の学校において、がんに関する教育を推進するための支援体制や具体的な取組についての検討及び普及啓発を行うための方策等を関係者が協議した。

1 構成員

全体で8名

(内訳：学識経験者(大学教授)1名、医療関係者(がん専門医・放射線診断部長)1名、がん患者会関係者1名、学校関係者(県PTA連合会副会長、モデル校学校長)3名、モデル校所管市町教育委員会1名、県保健福祉部健康増進課担当係長1名)

No	氏名	所属及び役職	備考
1	日野 克博	学識経験者	愛媛大学教育学部教授
2	菅原 敬文	医療関係者	四国がんセンター医師
3	吉森 公恵	がん患者会関係者	おれんじの会
4	梶原 玉男	保護者代表	愛媛県PTA 連合会副会長
5	浅川 和典	推進モデル校校長	西予市立野村中学校
6	友澤 義弘	推進モデル校校長	愛媛県立松山北高等学校
7	青木 志郎	関係市町教育委員会	西予市教育委員会学校教育課
8	田坂慎太郎	行政関係者	県保健福祉部健康増進課

2 開催時期・検討内容

【第1回がん教育推進協議会】オンライン開催

8月28日(金) 14:00~15:30

協議内容

- ・ 令和5年度事業概要について
- ・ 推進モデル校での具体的な進め方について
- ・ 各学校種におけるがん教育の取扱いについて
- ・ がん教育指導参考資料等の活用方法について

【参加人数：大学関係者・医療関係者・モデル校関係者等 8名】

【第2回がん教育推進協議会】オンライン開催

1月31日(水) 15:00~16:30

協議内容

- ・ 令和5年度事業報告
- ・ がん教育モデル校における実践報告
- ・ 成果と課題

- ・ 学校における今後のがん教育の進め方について
- ・ 各機関との連携について

② 教育委員会としての取組

○ 各学校におけるがん教育の推進に向けて

がん教育推進モデル校（中学校 1 校、高等学校 1 校）において、保健体育科教員と外部講師がティーム・ティーチングを行う様子を公開し、県下各校種からの参加者にモデルプランを示した。

さらに、中学校 + 1 校において、国が作成しているモジュール資料の活用と、外部講師とのティーム・ティーチングに視点を絞った研究を進め、文部科学省の調査官に助言をいただきながら、効果的な活用・連携について研究を深めた。

また、各学校における、より積極的ながん教育の展開へとつなげるため、推進モデル校における取組をまとめたリーフレットを作成し、県内の中学校と高等学校（特別支援学校含む）に配付した。

○ 教育活動全体におけるがん教育に向けて

専門医、がん患者会関係者等と連携したがん教育を進める中で、文部科学省や県が作成した資料の活用方法や、効果的な提示の方法等について協議し、公開授業等を通してモデルプランを提案した。

また、公開授業後の研究協議において、保健体育科以外の取組や地域・保護者との連携等について参加者と情報交換を行い、教育活動全体におけるがん教育へとつなげた。

○ リーフレットの作成

推進モデル校における講演会や授業の様子、生徒の感想等をまとめたリーフレットを作成し、県内の中学校、高等学校（特別支援学校含む）に配付した。



保健部局や地域の専門機関等との連携

県保健福祉部や四国がんセンター、がん患者会と連携し、外部講師の育成や研修会の開催などについて協議した。

また、愛 GIVER Project 募金活用事業として愛媛新聞社が主催する「がん教育外部講師育成研修」受講者が、推進モデル校における講演会や公開授業を参観し、外部講師と連携した取組について理解を深めるとともに、県内におけるがん教育の現状と今後の課題や方向性について伝える場となった。

(2) がん教育推進モデル校における取組

【西予市立野村中学校】

講演会

打合せ	令和5年10月31日（火）オンライン開催
開催日	令和5年11月6日（月）
対象	全校生徒、教職員
講師	四国がんセンター放射線診断部長 菅原 敬文 氏 NPO法人愛媛がんサポートおれんじの会 吉森 公恵 氏

公開授業

開催日	令和5年11月20日(月)
学年・組	第2学年2組
教科	保健体育科
授業内容	がんについての正しい知識を身に付け、自分にできる予防について考えを深めよう。
授業者	保健体育科 教諭 山下 成樹 NPO法人愛媛がんサポートおれんじの会 吉森 公恵 氏
指導助言	愛媛大学教育学部 教授 日野 克博 氏



【愛媛県立松山北高等学校】

講演会

打合せ	令和5年10月5日(木) オンライン開催
開催日	令和5年10月25日(水)
対象	第1学年、教職員
講師	四国がんセンター放射線診断部長 菅原 敬文 氏 NPO法人愛媛がんサポートおれんじの会 松本 陽子 氏

公開授業

開催日	令和5年11月9日(木)
学年・組	第1学年9組
教科	保健体育科
授業内容	がん患者への理解と共生
授業者	保健体育科 教諭 大政 友紀 NPO法人愛媛がんサポートおれんじの会 松本 陽子 氏
指導助言	愛媛大学教育学部 教授 日野 克博 氏



2. 事業の達成度について

[指導参考資料活用における成果]

- ・ 文部科学省や県が作成した参考資料を活用することで、科学的な根拠や情報に基づく基本的な内容や共通内容を具体的に示すことができるため、各学校で取り組みやすくなり、がん教育の普及啓発ができた。

[外部指導者の活用における成果]

- ・ 医療関係者とがん患者会関係者の協力を得て、モデル校において、がんセンター医師及びがん経験者の2名を講師とした講演会を開催し、推進モデル校の希望する内容について双方で系統性のある講演会を実施できた。また、講演を行ったがん経験者が、その後の授業の外部講師となり、知識と生活をつなげる役割を担うことができた。

[がん教育推進体制における成果]

- ・ 関係機関等（がん診療連携拠点病院、がん患者会、保健福祉部）との連携により、多面的ながん教育を推進することができた。
- ・ 「がん教育推進モデル校」における公開授業後の研究協議の中に、外部講師の講話や質疑応答の時間を設定し、参加者の研修の機会を確保できた。

3. 今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題など）

- ・ がん教育の必要性等の意識啓発、学校における系統的な指導の充実を図るため、引き続き、教職員を対象とした研修を行う。なお、研修会の開催方法は、大人数による参集型の一斉研修会以外にも、各地区別や校種別等、状況に応じてより実践につながる方法を検討していきたい。
- ・ リフレットや研修会等を通して、推進モデル校が実践した具体的事例を普及啓発し、各学校が取り組みやすいがん教育のモデルプランの提示を行っていきたい。
- ・ 家族にがん患者がいる生徒や家族をがんで亡くした生徒、治療中の生徒等への具体的な配慮例について紹介することで、各校における「実態に応じた取組」に繋げ、教師も生徒も安心して授業を進めることができるよう研修の充実を図る。
- ・ 外部講師の積極的な活用につながる体制を整備していく。

4. モデル校以外での取組について（課題や今後整理すべき事項など）

外部講師を活用した授業実践

令和4年度の「がん教育実施状況調査」では、外部講師を活用したがん教育を実施した学校は、小学校270校中8校・中学校125校中9校・高等学校53校中2校という結果であった。推進モデル校においては「先進的な実践」を重ねることができているが、それを県下各学校へ広げることができているかと問われると大変厳しい状況であり、そのことは、上記の国のアンケート調査の数値にも表れている。文部科学省の研修会での「全ての中学校、高等学校でがん教育は行われている。これからは『がん教育の質の向上』が求められている。」という言葉通り、国の資料等を効果的に活用し、外部講師と連携した授業モデルを、各学校の「実践」へとつなげ、質の向上を図る工夫をしていきたいと考えている。

系統的ながん教育の実施

小学校の「病気の予防」、中学校の「健康な生活と疾病の予防」、高等学校の「現代社会と健康」の中で取り扱う生活習慣病やがんについて、他校種の学習内容等を意識しながら系統的に取り組むことができるよう公開授業等において啓発していきたい。

がん教育等外部講師連携支援事業 事業成果報告書

1. 事業の具体的内容について

(1) 自治体における取組

① 協議会について

1. 構成員（合計18人）

令和5年度福岡県がん教育推進委員会

県医師会の医師1人、大学教授2人（がん専門医師1人含む）、保健所長（保健監）1人、県保健医療介護部がん感染症疾病対策課1人、私学振興課1人、がん患者団体代表1人、県小学校体育研究会副会長（学校長）1人、県中学校保健体育研究会副会長（学校長）1人、県高等学校保健体育研究部会会長（学校長）1人、県高校教育課指導主事1人、県義務教育課指導主事1人、教育事務所指導主事1人、事務局（体育スポーツ健康課）5人

2. 開催時期、検討内容

第1回推進委員会：令和5年9月7日（木）

- 【説明】 ・ 令和5年度がん教育推進委員会について
 ・ 平成26年度から令和4年度の取組及び令和5年度の事業について

- 【協議】 ・ 今後のがん教育に充実に向けて
 ・ がん教育外部講師派遣事業について

第2回推進委員会：令和6年2月8日（木）

- 【報告】 ・ 令和5年度事業報告（外部講師派遣事業、がん教育指導者研修会）
 【協議】 ・ 学校における外部講師を活用したがん教育の推進について
 （早期予約制度、授業参観制度）

② 教育委員会としての取組

がん教育指導者研修会

- 期日：令和5年10月27日（金） 参集及びオンライン研修【参加人数：163名】
- 目的：●がん教育についての指導者の理解を深め、がん教育の充実に資する。
 ●がん教育指導資料の内容について普及・啓発を図る。
- 内容：●講演（模擬授業形式）
 （NPO法人がんサポーターサポート 副理事 中原 美夏 氏 他看護師1名）
 ●学識経験者による講演
 （新潟医療福祉大学 教授 杉崎 弘周 氏）
- 参加者：教職員及びがん教育関係者
 （県立学校は主幹教諭または教務主任が必ず1名参加）



外部講師派遣事業

市町村立学校及び県立学校へ外部講師を派遣し、外部講師を活用したがん教育を推進した。令和5年度は、小学校9校、中学校7校、県立高校2校、私立中・高校5校の計23校へ派遣することができた。派遣の概要は、以下の通りである。

	実施期日	学校名	対象	講師	内容
1	9月12日	須恵町立須恵中学校	生徒 185名 教職員 5名	がん経験者 看護師	・がんの原因や症状 ・早期発見、治療法 ・命、感謝、生き方
2	9月13日	飯塚市立穂波西中学校	保護者136名 教職員 7名	がん経験者 看護師	・がんの原因や症状 ・命、時間の大切さ、人のあたたかさ
3	10月24日	新宮町立新宮中学校	生徒 334名 保護者 1名 教職員 13名	がん経験者 看護師	・がんの原因、現状 ・命、時間の大切さ、人のあたたかさ
4	10月24日	古賀市立古賀中学校	生徒 250名 教職員 9名	がん経験者 看護師	・がんの原因、現状 ・命、時間の大切さ、人のあたたかさ
5	10月26日	古賀市立古賀北中学校	生徒 190名 教職員 12名	がん経験者 看護師	・がんの起訴知識、予防 ・命の尊さ、自分らしく生きることの大切さ
6	11月30日	宇美町立宇美小学校	児童 110名 教職員 7名	がん経験者 看護師	・がんの原因、予防法 ・早期発見、早期治療の大切さ
7	12月 5日	古賀市立古賀東中学校	生徒 136名 教職員 10名	がん経験者 看護師	・がんの正しい知識、予防法 ・命の尊さ、自分らしく生きること
8	12月14日	県立朝倉東高等学校	生徒 158名 教職員 10名	がん経験者 (元教員)	・がんの種類 ・治療法と支える家族 ・健康の大切さ
9	12月15日	博多女子中学校	生徒 228名 保護者 1名 教職員 20名	がん経験者 看護師	・がんの正しい知識、早期発見、検診 ・自他の健康、命の大切さ、自己の在り方
10	12月15日	博多女子高等学校	生徒 707名 保護者 1名 教職員 41名	がん経験者 看護師	・がんの正しい知識、早期発見、検診 ・自他の健康、命の大切さ、自己の在り方
11	1月11日	糸島市立福吉小学校	児童 34名 教職員 4名	がん経験者 看護師	・がんの基礎知識 ・早期発見、命の大切さ、自分らしく生きること

12	1月17日	古賀市立青柳小学校	児童 50名 保護者 8名 教職員 2名	がん経験者 看護師	・がんの基礎知識 ・早期発見、命の大切さ、 自分らしく生きること
13	1月22日	県立玄洋高等学校	生徒 11名 教職員 3名	がん経験者 看護師	・がんの正しい知識 ・命や時間の大切さ、 人のあたたかさ
14	1月23日	糸島市立長糸小学校	児童 20名 教職員 4名	がん経験者 看護師	・がんの基礎知識 ・早期発見、命の大切さ、 自分らしく生きること
15	1月25日	古賀市立古賀西小学校	児童 78名 教職員 2名	がん経験者 看護師	・がんの基礎知識 ・早期発見、命の大切さ、 自分らしく生きること
16	1月26日	春日市立春日南小学校	児童 148名 教職員 7名	がん経験者 看護師	・がんの正しい知識 ・身近な人ががんになった ときの関わり方
17	1月31日	立花高等学校	生徒 100名 教職員 3名	がん経験者 看護師	・がんの正しい知識、早期 発見の大切さ ・自他の健康、命の大切 さ、自己の在り方
18	2月1日	精華女子高等学校	生徒 378名 教職員 20名	がん経験者 看護師	・がんの正しい知識、早期 発見の大切さ ・自他の健康、命の大切 さ、自己の在り方
19	2月1日	古賀市立花鶴小学校	児童 99名 教職員 3名	がん経験者 看護師	・がんの基礎知識 ・早期発見、命の大切さ、 自分らしく生きること
20	2月6日	飯塚高等学校	生徒 200名 教職員 12名	がん経験者 看護師	・がんの正しい知識、早期 発見の大切さ ・自他の健康、命の大切 さ、自己の在り方
21	2月9日	宇美町立宇美南中学校	生徒 83名 教職員 3名	がん経験者 看護師	・がんの基礎知識 ・早期発見、命の大切さ、 自分らしく生きること
22	2月13日	古賀市立小野小学校	児童 64名 教職員 2名	がん経験者 看護師	・がんの基礎知識 ・早期発見、命の大切さ、 自分らしく生きること
23	2月14日	飯塚市立大分小学校	児童 26名 教職員 2名	がん経験者 看護師	・がんの仕組みや予防 ・命や時間の大切さ

③ 保健部局や地域の専門機関等との連携

- 県保健医療介護部がん感染症疾病対策課が実施している「がん教育を通じた大切なひとからのメッセージカードによるがん検診受診勧奨事業」について、対象の公立中学校へ依頼するとともに、その事業成果と課題を共有した。
- 県医師会と連携し、外部講師として医師を希望する学校に、そのニーズに合わせて派遣できるようなシステムを構築した。

2. 事業の達成度について

① がん教育推進委員会

成果： 学校における外部講師を活用したがん教育を推進するために、様々な立場の視点から意見交流ができ、事業の目指す方向や推進するにあたっての課題解決の具体的方策を協議することができた。

特に、外部講師派遣事業については、多忙な学校現場の負担に配慮しつつ、見通しをもって年間指導計画に位置付けたり、外部講師を活用したりする等がん教育の充実に向けて、各委員から多くの意見をいただくことができた。がん診療拠点病院の施設数やがん患者支援団体との連携など、本県の強みを生かしつつ、がん教育の重要性や事業内容の周知を継続するとともに、今後の取組について具体策と課題を共有することができた。

<推進委員会後アンケートの自由記述>

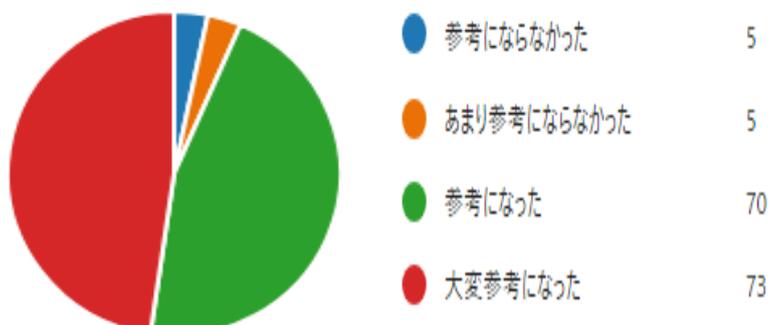
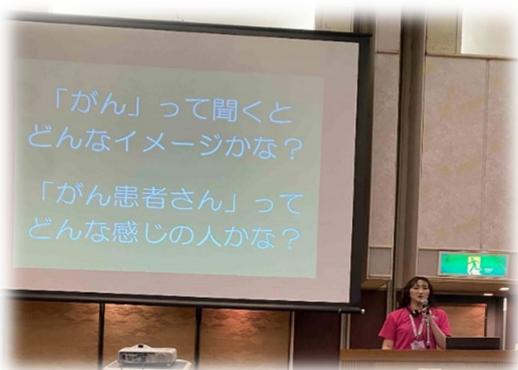
- ・ 多くの学校でさらにがん教育を推進していく必要があるので、今後も事業内容の周知・広報活動が重要。
- ・ がん教育を持続可能に推進していくためにも、学校現場の負担に配慮しつつ、どうすれば推進にあたっての課題を解決できるか、今後も様々な立場から協議していくことが必要。

② がん教育指導者研修会

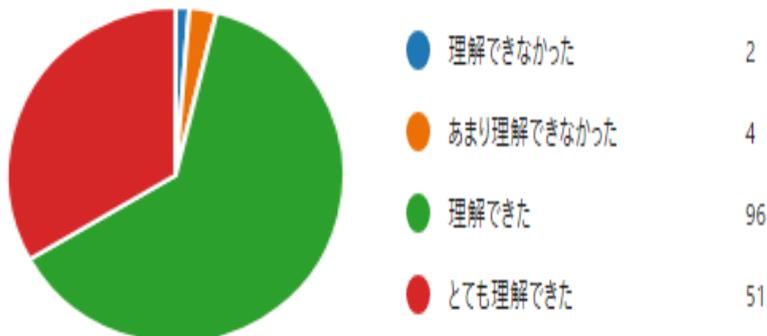
成果： 体育科・保健体育科をはじめ、道徳科、特別活動等における指導について、年間指導計画に基づく指導のあり方や、個別に行う配慮の具体について普及・啓発を図ることができた。

<研修会后アンケートの自由記述>

- ・ 外部講師を活用することで、教員では伝えられない部分を生徒に伝えることができる。検診の大切さや命の尊さを実感し、心に響いた。
- ・ がんの正しい知識や予防など専門的な説明を看護師から、実際にがんになって感じたこと、がん患者との関わり方など体験談をがん経験者から話してもらう2部構成がよかった。



- ・ 国の動向やがんに関する様々なデータがわかりやすく、高校での実践例などすぐに実践できそうな内容で参考になった。
- ・ がん教育の指導計画について、年間を通して系統立てたカリキュラムを作ることの必要性和、その方法について考えることができた。



③ 外部講師派遣事業

成果：実施校 23 校（小学校 9 校、中学校 7 校、県立高校 2 校、私立中・高校 5 校）において、医療従事者やがん経験者等による授業や講演を通して、正しい知識や健康・命の大切さ、がん経験者等に対する正しい認識を持たせることができた。

3. 今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題など）

<令和 5 年度の実践から>

○外部講師を活用したがん教育を促す。

→年間指導計画に位置付けて取り組むことができるよう、前年度の内に外部講師活用の希望調査を行う。

→外部講師を活用した実践を、近隣の他校教職員が自由に参観できるようなシステムを構築することを目指し、協力校にて試験的に取り組み、成果と課題をまとめる。

<令和 6 年度の取組>

令和 6 年度は、「がん教育等外部講師連携支援事業」の申請を行い、上記の課題について解決に向けての方策を示すために、下記を実施する。

○がん教育推進委員会の設置（年 2 回開催）

○教職員等を対象とした研修会の実施（「福岡県がん教育指導資料集」の周知、外部講師活用の促進を図る。）

○外部講師派遣事業の実施回数は 40 校を予定（小・中学校 16 校、県立学校 17 校、私立学校 7 校）

4. モデル校以外での取組について（課題や今後整理すべき事項など）

○がん教育推進のための校内組織体制。教職員に対してがん教育の必要性和理解を促すこと。

○特別支援学校でのがん教育実践の難しさ。

○様々な学校行事や〇〇教育がある中で、時間の確保が難しい。

がん教育等外部講師連携支援事業 事業成果報告書

1. 事業の具体的内容について

(1) 自治体における取組

① 協議会について

1. 構成員

全13名

がんの専門医、医師（佐賀県医師会）、佐賀県PTA連合会理事、NPO法人事務局長（がん患者サポート団体）、大学教授、がん患者会代表、健康福祉政策課がん撲滅特別対策室長、推進校高等学校長、推進校中学校長、推進校小学校長、推進校管轄教育委員会指導主事、推進校管轄教育事務所指導主事、保健体育課長

2. 開催時期、検討内容

【第1回】令和5年8月30日（水）

- 協議内容
- ・令和5年度がん教育総合支援事業について
 - ・「がん教育に関する計画」について
 - ・各推進校の実施計画について
 - ・がん教育指導者研修会の実施について
 - ・がん教育外部講師リストの作成について

【第2回】令和6年2月7日（水）

- 協議内容
- ・令和5年度がん教育総合支援事業の成果報告について
 - ・各推進校の実践報告
 - ・事業の取り組み評価
 - ・がん教育外部講師リスト及び打合せシートの作成について

協議内容

② 教育委員会としての取組

県教育委員会では、がんに対する正しい理解とがん患者に対する正しい認識及び命の大切さについて考える態度の深化を図ることを目的として、「がん教育に関する計画」を策定し、がん教育を推進している。

令和5年度においては、モデル的な取組を行う推進校として、みやき町立北茂安小学校、みやき町立北茂安中学校、佐賀県立三養基高等学校を指定し、学習指導案等の作成及び授業の実践、公開を行うことで、県内学校におけるがん教育の充実を図った。

また、教職員及び外部講師を対象としたがん教育指導者研修会を集合形式にて開催し、124名が参加した。研修会では、医師による講演、令和5年度がん教育推進校による実践発表及び佐賀県健康福祉部健康福祉政策課がん撲滅特別対策室から佐賀県のがんの現状及び中学3年生を対象としたピロリ菌検査事業の説明、県教委によるがん教育の説明を行った。講演では、佐賀大学医学部小児科診療講師の西 眞範先生を招き、教職員及び外部講師に「子どもたちに伝えるべきこと～小児がん専門医によるがん教育～」をテーマに講演を行っていただいた。

また、県内の公立学校32校（推進校を含む）にのべ45名の外部講師を派遣し、児童生徒を対象とした講演会等を実施した。

③ 保健部局や地域の専門機関等との連携

- 県内公立学校において開催した講演会や授業では、がん教育に関する協議会委員である、椎原寿恵会理事長（佐賀国際重粒子線がん治療財団名誉理事長）、佐賀県健康づくり財団ピアサポーター、がん診療連携拠点病院の佐賀大学医学部附属病院及び佐賀県医療センター好生館の医師、看護師、NPOクラブサポートから講話をしていただいた。
- がん教育に関する協議会委員及び佐賀県のがん拠点病院の医師の協力の下、がん教育外部講師リストを作成し、がん教育における外部講師活用促進及び外部講師の人材確保を図った。リストの作成により、各講師が講演できる内容、地域等が可視化されることから、今後講師選定及び依頼を効率的に行うことができるようになると思う。
- また、講演を希望する学校と外部講師の打ち合わせの効率化を目的として、打合せシートを合わせて作成した。

(2) モデル校における取組

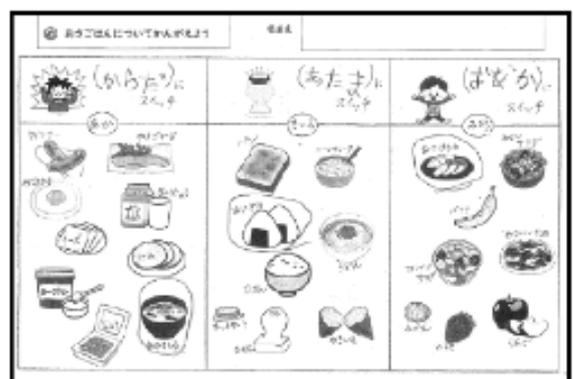
① 小学校の取組

みやき町立北茂安小学校

「健康について関心と理解を持ち、よりよい生活習慣を身に付けようとする児童の育成」をテーマに設定し、各学年の発達段階に応じて、「健康や命の大切さ」に重点を置いたがん教育を実施した。

【学級活動】

- ・「きゅうしょくのひみつ」 対象学年：1年…1時間
- ・「あさごはんでスイッチオン」 対象学年：1年…1時間
- ・「好き嫌いをなく何でも食べよう」 対象学年：3年…1時間



【体育科（保健）】

- ・「防煙教室」 対象学年：6年…1時間
- ・「薬物乱用教室」 対象学年：6年…1時間

【総合的な学習の時間】

- ・「豆腐作り」

対象学年：3年…2時間



【給食】

- ・「がんの予防」

対象学年：全学年

【道徳】

- ・「『がん』を知る。そしてどうする？」 対象学年：6年及び保護者…2時間（公開授業）

講師：佐賀大学医学部附属病院 小児科 医師 垣内 俊彦 氏



②中学校の取組

みやき町立北茂安中学校

「がんに対する理解とがん患者に対する認識をもち命の大切さについて考える態度を育む」をテーマに設定し、がんを正しく理解し、健康や命の大切さについて考え、適切な態度と行動をとることができる生徒の育成を目指したがん教育を実施した。

【総合学習】

- ・「食育・生活習慣とがんの関係について」
- ・「防煙教室」
- ・「薬物乱用防止講演会」

対象学年：全学年…1時間

対象学年：1年…1時間

対象学年：2年…1時間

・「医師によるがん教育講演会 がんってなあに？」対象学年：全学年… 1時間

講師：佐賀県医療センター好生館 消化器内科医 富永 直之 氏



・「がん患者から学ぶこと」

対象学年：全学年… 1時間

講師：一般社団法人「学びに SPARK を」 代表理事 堤 梨佳 氏

・「社会との共生」～世界の「健康」（外国人留学生との交流学习） 対象学年：2年… 1時間（公開授業）

講師：一般社団法人「学びに SPARK を」 代表理事 堤 梨佳 氏、留学生3名

指導助言：佐賀国際重粒子がん治療財団名誉理事長 中川原 章 氏



・「薬と健康にかかわる講演会 お薬との上手な付き合い方」 対象学年：全学年及び保護者… 1時間

講師：溝上薬局メディカルコミュニティセンターみやき店 薬剤師 今木 鴻太 氏

・「福岡大学とみやき町教育委員会との連携事業 命を救う仕事の魅力について」

対象学年：2年… 1時間

講師：福岡大学病院 救命救急センター/ECMO センター 星野 耕太 氏 他

【保健体育】

・「健康な生活と病気の予防」

対象学年：2年… 1時間

【道徳】

・「生命を輝かせて」

対象学年：2年… 1時間

③高等学校の取組

佐賀県立三養基高等学校

「がんについて正しい理解と、がん患者に対する正しい認識を持ち、健康と命の大切さについて主体的に考え行動しようとする生徒の育成を図る」をテーマに、青年期のがんについての考察や友人に対する配慮に重点を置いたがん教育を実施した。

【総合的な学習の時間】

- ・「がん教育プログラムを使用した授業」 対象学年：全学年及び教職員…1時間
- ・「がん教育講演会 白血病の経験から高校生に伝えたいこと」 対象学年：全生徒及び教職員…1時間
講師：谷 虹星 氏（白血病経験者）

2. 事業の達成度について

小学校では「健康について関心と理解を持ち、よりよい生活習慣を身に付けようとする児童の育成」をテーマに、外部講師による講演以外にも給食や豆腐作りの時間を活用したがん教育を行った。アンケートでは、「日頃から、バランスの良い食事や適度に運動を行うなど健康な体作りに取り組もうと思う」の質問で、事前は「そう思う」が77%だったが、事後は86%に増加していた。また、「がんと健康について、まずは身近な家族から語ろうと思う」の問いに対し、事前は「そう思う」が37%だったが、事後は70%になり、大幅に増加していた。がん教育を通して、児童生徒だけではなくその保護者にもがんや健康に対する意識が向上することが期待できる。

中学校では、「がんに対する理解とがん患者に対する認識をもち、命の大切さについて考える態度を育む」をテーマに、がん経験者や医師等外部講師による講演や外国人留学生との交流を行った。アンケートでは、「がんになっても生活の質を高めることができる」の質問で、事前は「そう思う」が16%だったが、事後は25%となった。さらに、「がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う」の問いでは、事前は「そう思う」が59%だったのに対し、事後は70%に増加した。がんに対する基礎的な知識だけではなく、がん患者への理解と予防に対する意識を身に付けることができた。

高等学校では、「がんについて正しい理解と、がん患者に対する正しい認識を持ち、健康と命の大切さについて主体的に考え行動しようとする生徒の育成を図る」をテーマにがん教育を行った。アンケートの、「自分にはがんにならないと思う」の項目では、事前では「思わない」が39%だったことに対し、事後は52%となった。また、「がんになっている人も過ごしやすい世の中にしたい」の問いでは、事前は「そう思う」が72%だったが事後は88%に増加した。高校生の時に白血病となった経験者の話により、がんは身近な病気だと実感し、がん患者への正しい認識を持つことができた。

県教委による教職員（東部地区）及び外部講師を対象にしたがん教育指導者研修会では、佐賀大学医学部附属病院の西 眞範先生による講演、令和4年度のがん教育推進校による実践発表、佐賀県健康福祉政策課がん撲滅特別対策室の事業担当者による報告を行い、がん教育の重要性や学校での取組、佐賀県のがんの現状及び中学3年生を対象としたピロリ菌検査事業についてお話していただいた。教職員への事後アンケートでは、「がん教育の重要性は年々増してきているように感じる。今回がんについても改めて知ることが多く、参加してよかった」「がん教育と聞くと、原因や予防についての印象が大きかったが、子どもの頃からがんについて正しい知識や正しく知る方法を身につけて、将来がんになった場合に、冷静に判断できる力を養うことも大切だと学んだ」との意見があり、教職員の資質向上及びがん教育の重要性を伝えることができた。

外部講師派遣については、協議会委員、がん診療連携拠点病院、NPO法人等の協力を得て、がん教育推進校を含む県内の公立学校32校にのべ45名の外部講師を派遣した。

県教育委員会として、改めて、年間指導計画を「健康教育（がん教育）」という視点で見直してもらうことを周知し、食育や道徳教育等との横断的な指導に結び付けていくことによって、がん教育を学校のカリキュラムに位置づけられれば持続可能ながん教育ができるのではないかと考える。

3. 今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題など）

令和5年度は、がん教育の指導者及び外部講師向けの研修をオンデマンドとした場合の配信時期及び高等学校のモデル校の選定についてあげていた。令和5年度は、がん教育指導者研修を集合形式で開催したことにより、改めて教職員のがんに関する知識の向上と、学校におけるがん教育の充実について伝えることができた。

また、小学校、中学校と同地区内から高等学校の推進校を選定したため、小学校では命や健康の大切さ、中学校ではがんや健康に関する意識、高等学校ではがん患者との共生というように発達段階によるがん教育が体系化できた。

今後とも、発達段階に合わせた取組を行いながら、小学校→中学校→高等学校と一連の流れでがんや健康について主体的に学習ができる取組を行いたい。

4. モデル校以外での取組について（課題や今後整理すべき事項など）

（1）教職員の研修

教職員のがん教育に関する理解、がんについての知識だけではなく、推進校の取組を実践発表していくことで、学校に対し、がん教育とは新しい取組を行うことだけではなく、現在行っている授業や取組に「がん教育」の視点を入れていくことを周知していく。

（2）外部講師リスト及び打合せシートの公開

県内の各学校での外部講師の活用を推進していくためには、外部講師の人材確保と学校が講師を選定しやすくする手立てが必要である。講演を行う外部講師、学校のがん教育担当、児童生徒が「がん教育を行ってよかった」と感じるためにも、講師と学校の事前の情報共有を行いやすい体制づくりを行う。

（3）ワークシートやアンケートの作成、周知

外部講師の講演による受け身のがん教育となっている現状がある。主体的、対話的で深い学びを実践しやすくするためにも、講演後に活用できるワークシート等を作成し、活用できるようにする。

がん教育等外部講師連携支援事業 事業成果報告書

1. 事業の具体的内容について

(1) 自治体における取組

① 協議会について

1. 構成員 計13人

<内 訳>

県医師会1人（消化器外科、外科、内科、理学療法科専門）、大学教授1人、がん患者支援団体2人
PTA1人、校長3人、養護教諭2人、市教委1人、県衛生主管部局1人、県教委1人

2. 開催時期、検討内容

○第1回（8月18日 集合開催）

- ・協議会設置要項の確認
- ・本県のがん教育の課題や目標等の共通理解
- ・具体的取組計画（がん教育指導者研修会の実施や外部講師派遣の実施、先進的な取組事例の周知、がん教育外部講師リストの拡充等）の内容について

○第2回（1月26日 集合開催）

- ・令和5年度事業報告
- ・取組成果の検証及び次年度事業計画の検討等

② 教育委員会としての取組

○がん教育指導者研修会（10月12日 WEB開催） 講師：がん看護専門看護師

- ・がん教育推進の中心を担う管理職や保健主事及び養護教諭等の学校職員、外部講師候補の医師・看護師・保健師やがん患者支援団体を対象に実施した。
- ・参加者172名

（内訳：教職員156名、医師・看護師5名、保健師6名、がん患者支援団体4名、行政職1名）

○がん教育の推進に向けた先進的な取組の事例発表（10月12日 WEB開催）

- ・発表者：佐世保市立中学校養護教諭
- ・各学校における取組の参考となるよう、研修会において前年度推進校の実践発表を実施した。

○がん教育外部講師派遣（小学校9校、中学校9校、高校2校 計20校）

- ・希望する学校へ外部講師を派遣し、地域のがん教育推進校として講演会等を実施した。

○外部講師を活用したがん教育の先進的な事例の周知

- ・各学校の取組の参考となるよう、各推進校における講演会等の状況や児童生徒の変容を県のホームページに掲載した。

③ 保健部局や地域の専門機関等との連携

○学校への外部講師派遣については、教育委員会で希望をとりまとめ、講師の調整は関係機関に依頼し、派遣している。

- ・保健部局については、「がん診療連携拠点・推進病院」や「がん診療離島中核病院」からの外部講師（がん専門医、専門看護師等）の依頼について担当している。
- ・県医師会とは、講師の派遣を依頼できる連携体制が構築できている。

・がん患者支援団体とは、講師の派遣を依頼できる連携体制が構築できている。

○保健部局及びがん患者支援団体と連携し、外部講師派遣リストの更新・拡充を図った。

(2) モデル校における取組

＜小学校9校、教科：特別活動、体育＞

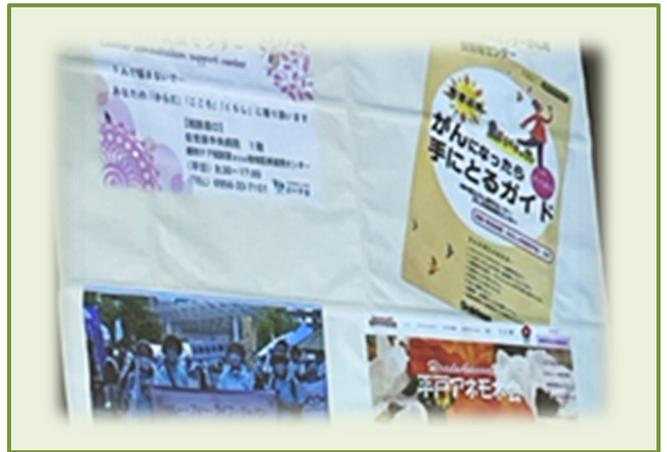
- 長崎市立土井首小学校（6年）
 - ・がん看護専門看護師による授業の実施
 - ・テーマ「みんなで知ろう正しいがんのこと」
- 長崎市立為石小学校（5年）
 - ・医師による授業の実施
 - ・テーマ「がんの予防」
- 大村市立三浦小学校（6年）
 - ・医師による授業の実施
 - ・テーマ「いのちの授業」
- 平戸市立志々伎小学校（5・6年）
 - ・がん経験者による授業の実施
 - ・テーマ「がんの体験談 命の大切さ」
- 吉崎市立霞翠小学校（6年）
 - ・医師による授業の実施
 - ・テーマ「『がん』という病気」
- 吉崎市立八幡小学校（全学年）
 - ・がん看護専門看護師による講演会の実施
 - ・テーマ「がんの予防と望ましい生活習慣」
- 西海市立平島小中学校（小4・5年、中3年）
 - ・医師による授業の実施 ※オンライン
 - ・テーマ「がんに対する正しい知識をもち、自他の命の大切さについて考える」
- 雲仙市立神代小学校（6年）
 - ・医師による講演会の実施
 - ・テーマ「がんについての正しい知識をもち、健康と命の大切さを学ぶ」
- 東彼杵町立千綿小学校（6年）
 - ・がん看護専門看護師による授業の実施
 - ・テーマ「がんを予防するため、日常生活で心がけておきたいこと」

＜中学校9校、教科：特別活動、保健体育＞

- 長崎市立土井首中学校（3年）
 - ・医師による授業の実施
 - ・テーマ「がん予防について」
- 佐世保市立日宇中学校（3年）
 - ・緩和ケア認定看護師による講演会の実施
 - ・テーマ「がんについて理解しよう」



- 佐世保市立祇園中学校（全学年）
 - ・医師による講演会の実施
 - ・テーマ「がんについて正しく知ろう」
- 諫早市立喜々津中学校（1・2年）
 - ・医師による講演会の実施
 - ・テーマ「がんについて学びを深め、健康を守る、命を守る生活習慣の確立を目指そう」
- 諫早市立琴海中学校（全学年）
 - ・医師による授業の実施
 - ・テーマ「がんとその予防」
- 平戸市立中野中学校（全学年）
 - ・緩和ケア認定看護師による講演会の実施
 - ・テーマ「がんと向き合う、がんと共に生きる」
- 平戸市立中部中学校（全学年）
 - ・緩和ケア認定看護師による授業の実施
 - ・テーマ「自他の健康と命の大切さ」
- 対馬市立東部中学校（2・3年）
 - ・医師による授業の実施
 - ・テーマ「健康と命の大切さ」
- 五島市立岐宿中学校（全学年）
 - ・医師による講演会の実施
 - ・テーマ「がんについて学ぶ」



<高等学校2校、教科：保健体育>

- 県立五島高等学校（全学年）
 - ・医師による講演会の実施
 - ・テーマ「がんとその予防」
- 県立佐世保工業高等学校（1・3年）
 - ・医師による講演会の実施
 - ・テーマ「高校生に今考えてほしいがんのこと」

(3) その他

<がん患者支援団体の取組>

- がん教育外部講師研修会の開催
(7月22日 集合開催)
 - ・外部講師候補となるがん経験者が会し、質の高い授業が実践できるよう指導案作成等のワークショップに取り組み、指導力向上に努めた。
 - ・県教委担当者も依頼を受け、本県におけるがん教育の現状や課題について講義を行った。
 - ・参加者18名

(内訳：主催者2名、がん経験者10名、

講師…医師2名、がん支援団体理事2名、行政2名)



2. 事業の達成度について

- 協議会では、がん教育の重要性を再認識するとともに、今後の取組推進について課題の共有を図った。
- がん教育指導者研修会については、外部講師経験豊富ながん看護専門看護師にご講義いただき、受講者の理解度は「理解できた」81.8%、「やや理解できた」17.5%と高評価であった。
- がん教育の推進に向けた先進的な取組の事例発表として、研修会の場で令和4年度のモデル校に自校の取組を発表してもらった。本実践発表における受講者の理解度は「理解できた」91.6%、「やや理解できた」8.4%と高評価であった。発表を聞き、「自校でも実践したい」という感想が多く、実践意欲につながる効果的な発表となった。
- 20校に外部講師を派遣した。児童生徒に対するアンケートでは、「がんの学習は、健康な生活を送るために重要だ」の問いに「そう思う」と答えた児童生徒が、実施前78.4%から実施後88.4%に増加した。また、「がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う」が、実施前55.9%から実施後70.0%に、「がんになっている人も過ごしやすい世の中にしたい」が、実施前68.1%から実施後77.6%にそれぞれ増加するなど、顕著な変容が見られた。児童生徒の感想の中には、「生活習慣を見直し、命を大切にしたい」や「今日聞いた話を家族にも伝えたい」といった内容が記されており、がんに対する正しい認識や命の大切さを考える機会になったことがうかがえる。
- 過年度まで外部講師については、少数の経験豊富な医師や看護師に複数校への派遣を担っていただき、多大な負担をおかけしていた。今年度は関係機関との連携により、がん診療連携拠点病院の専門医やがん経験者など、9名の方を初めて講師として派遣することができた。特にがん診療離島中核病院の協力体制が構築できたことで、離島地区の学校への講師派遣がスムーズに行えるようになった。

3. 今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題など）

- 今年度事業は国費のみ。令和6年度事業についても国費のみでの実施計画としているが、がん教育の推進に関する協議会等の開催について市町に積極的に働きかけていきたい。
- がん教育指導者研修会については、「がん」を扱う授業を担っている保健体育科教員の参加が少ない。各市町教委と連携し、校長会等を通じた周知に努めたい。
- 外部講師派遣については、希望校への派遣を優先しているが、派遣地域に偏りが出てきている。各地域にバランスよく派遣できるよう、過年度派遣できていない地域については、事業活用についていねいに説明し募集をかけたい。また、「医療従事者とがん経験者」をペアにした派遣など、派遣形態の工夫に取り組む。
- 外部講師リストについては、掲載している医療機関の要請で現状は非公表である。今後、外部講師を探す手立てとして、各学校や各市町教委が効果的に活用できるよう、保健部局と連携し、医療機関との調整を図りたい。また、外部講師登録票を活用し、がん経験者のリスト掲載に取り組んでいく。

4. モデル校以外での取組について（課題や今後整理すべき事項など）

- 教員に対するがん教育教材の活用促進
がん教育への取組は学校間や校種間で温度差がある。研修会等を通じて、がん教育推進のための教材や補助教材の効果的な活用を促し、質の充実を図っていく。
- 各市町におけるがん教育の取組推進
県健康部局と連携を図り、がん教育の推進に関する協議会等の開催など、市町におけるがん教育の事業化について働きかける。
- 市町教委への外部講師リストの公表と活用法の確立
公表に向けた掲載内容の整理を行うとともに、具体的な活用法について協議・検討していく。

がん教育等外部講師連携支援事業 事業成果報告書

1. 事業の具体的内容について

(1) 自治体における取組

① 協議会について

ア 構成員 (19人)

医師(がん専門医)1人, 医師(内科医)1人, 保健所長1人, NPO法人(がん経験者)1人, モデル校(学校長, 教職員)6人, 養護教諭代表2人, 県くらし保健福祉部健康増進課係長1人, 関係市町教育委員会指導主事2人, 県教育庁義務教育課指導主事1人, 人権同和教育課主任指導主事1人, 保健体育課長1人, 保健体育課指導主事1人

イ 開催時期、検討内容

【鹿児島県がん教育等外部講師連携支援事業第1回連絡協議会】

- ・ 開催期日 令和5年8月29日(参加者10人(オンライン参加1人含む))
- ・ 検討内容

昨年度までの実践の課題を受けて, 本年度は, 教職員を対象とした研修会の実施や鹿児島県がん教育外部講師リストを活用した外部講師の派遣, 小・中・高等学校へのモデル校の設置, 医療関係者及びがん経験者等を対象とした研修会での講義などについて提案し, 協議した。

【鹿児島県がん教育等外部講師連携支援事業第2回連絡協議会】

- ・ 開催期日 令和6年1月26日(参加者17人(オンライン参加2人含む))
- ・ 検討内容

研修会やモデル校の実践, 県健康教育研究大会におけるがん教育分科会の取組などについて報告し, 成果と課題の検証, 次年度に向けての懸案事項等について協議した。

② 教育委員会としての取組

ア 研修会の開催

【がん教育指導者研修会】

- ・ 開催期日 令和5年8月25日
- ・ 対象 公立学校の教職員, 教育委員会等の学校保健担当者
- ・ 講師 がん教育モデル校校長, 養護教諭, 医療従事者, がん経験者, 県教育委員会保健体育課
- ・ 参加者 88人



【県健康教育研究大会】

- ・ 開催期日 令和6年2月9日
- ・ 対象 公立学校の教職員, 教育委員会等の学校保健担当者等
- ・ 講師 がん教育モデル校校長, 養護教諭
- ・ 参加者 93人



【がん教育について周知を行ったその他の研修会】

県保健体育課主催の既存の研修会において, がん教育に関する講義の時間を設定し, がん教育授業の進め方や配慮事項等について周知を行った。周知を行った研修会は以下のとおりである。

- ・ 学校保健・安全・歯科保健講習会

(オンライン 11月9日:参加者168人, 11月16日:参加者:224人)

- ・ 県高等学校・特別支援学校養護教諭研修会（6月20日：参加者124人）
- ・ 県高等学校・特別支援学校体育担当者研修会（6月23日：参加者99人）
- ・ 小・中学校体育担当者研修会
（大島地区 6月28日：参加者32人，6月29日：参加者27人，合計59人）
（北薩地区 7月4日：参加者38人，7月5日：参加者45人，合計83人）

【研修会において周知を行った主な内容】

- ・ がん教育の背景，がん教育の目標，内容
- ・ 保健体育科におけるがん教育授業の進め方，教材等の紹介
- ・ がん教育を進めるに当たっての配慮事項
- ・ がん教育における外部講師の活用

イ モデル校の設置

県内小・中・高等学校から各1校ずつ，3校設置し，特に外部講師を活用したがん教育を推進する取組を実施，その成果と課題について検証した。

【モデル校】

- ・ 阿久根市立折多小学校
- ・ 伊仙町立犬田布中学校
- ・ 鹿児島県立甲南高等学校

ウ 県がん教育外部講師リストを活用した学校への外部講師派遣の実施

令和5年度に更新した県がん教育外部講師リストを活用し，県内小・中・高・特別支援学校を対象に32回，がん教育外部講師の派遣を行った。

- ・ 県内学校への派遣希望調査の送付（7月）
- ・ 派遣校の決定（9月）
※ 県内学校59校から希望があり，32回の派遣を決定（派遣校数：37校）
- ・ 派遣に関する講師や学校との打合せ（10月）
- ・ 学校への外部講師派遣（11月から2月）

<37校の派遣内訳>

- ・ 小学校19校，中学校8校，高等学校4校，義務教育学校5校，特別支援学校1校
- ・ 医療関係者12校，がん経験者25校

「令和5年度外部講師派遣校一覧」

1. モデル校	地区	学校名	対象学年	人数	実施方法	実施形態	講師の職種	派遣日	時間	
1	北薩地区	阿久根市 折多小学校	6年	17	対面	授業	がん経験者	9月29日	14:05~14:50	
2	北薩地区	伊仙町 犬田布中学校	3年4組	20	対面	授業	がん経験者	12月11日	14:15~15:05	
3	北薩地区	鹿児島市 甲南高等学校	1年3組	40	対面	授業	医療従事者	12月13日	10:50~11:40	
2. 授業	(1) 公立小中学校	地区	学校名	対象学年	人数	実施方法	実施形態	講師の職種	派遣日	時間
1	大島地区	鹿児島市	鹿児島小学校	6年2クラス	64	対面	授業	医療従事者	12月5日	14:15~15:00
2			山下小学校	6年2クラス	82	対面	授業	医療従事者	12月12日	13:30~14:15
3			西陵小学校	6年3クラス	108	対面	授業	医療従事者	1月30日	14:10~14:55
4			西田小学校	6年3クラス	96	対面	授業	がん経験者	11月16日	14:50~16:25
5			八幡小学校	6年3クラス	115	対面	授業	医療従事者	12月7日	13:55~14:40
6	大島地区	いちき串木野市	羽鳥中学校	1~3年3クラス	23	対面	授業	がん経験者	11月29日	15:05~15:55
7			市東中学校	2年2クラス	52	対面	授業	がん経験者	1月11日	8:50~9:40
8	大島地区	三島村	三島南小学校	5・6年4校	18	オンライン	授業	医療従事者	11月7日	14:15~15:00
9			三島北小学校	7~9年4校	34	オンライン	授業	医療従事者	11月7日	15:10~16:00
10			平尾小学校	5・6年2クラス	24	対面	授業	がん経験者	11月21日	14:15~15:00
11	大島地区	長島町	長島小学校	2年1クラス	28	対面	授業	がん経験者	1月26日	15:10~16:00
12			川原中学校	1~3年3クラス	47	オンライン	授業	医療従事者	12月13日	11:45~12:25
13	大島地区	南さつま市	中津良小学校	5・6年1クラス	7	対面	授業	がん経験者	12月14日	13:55~14:40
14			吹上小学校	2年1クラス	7	オンライン	授業	がん経験者	11月24日	13:55~14:45
15	大島地区	姶良市	姶良小学校	6年3クラス	112	対面	授業	がん経験者	11月15日	13:55~14:40
16			山田中学校	1~3年3クラス	45	対面	授業	がん経験者	12月21日	14:10~15:00
17	大島地区	霧島市	小野小学校	6年1クラス	32	対面	授業	医療従事者	12月4日	14:15~15:00
18			豊分西小学校	6年2クラス	93	対面	授業	がん経験者	12月8日	14:10~14:55
19	大島地区	志布志市	野津小学校	5・6年2クラス	45	対面	授業	がん経験者	1月29日	14:15~15:00
20			豊月小学校	6年2クラス	54	対面	授業	医療従事者	12月7日	13:55~15:25
21	大島地区	薩摩川内市	大塚小学校	6年1クラス	27	対面	授業	がん経験者	1月18日	15:15~16:00
22			新宮小学校	5・6年	8	オンライン	授業	がん経験者	12月18日	10:30~11:15
23	大島地区	中種子町	新宮小学校	5・6年	4	オンライン	授業	がん経験者	12月18日	10:30~11:15
24			新宮小学校	3~6年	9	オンライン	授業	がん経験者	12月18日	10:30~11:15
25	大島地区	薩摩川内市	神山小学校	5・6年2クラス	28	対面	授業	がん経験者	11月29日	15:40~11:25
26			龍谷小学校	6年2クラス	64	対面	授業	がん経験者	1月19日	15:25~11:10
27	大島地区	奄美市	奄美小学校	6年2クラス	80	対面	授業	がん経験者	1月19日	15:20~16:10
28			名瀬中学校	2年2クラス	30	対面	授業	がん経験者	1月19日	15:20~16:10
(2) 協力学校	地区	学校名	対象学年	人数	実施方法	実施形態	講師の職種	派遣日	時間	
1	北薩地区	伊仙町 折多小学校	3年2クラス	45	対面	授業	がん経験者	12月1日	13:25~14:35	
2	北薩地区	鹿児島市 高木実業高等学校	1年1クラス	40	対面	授業	がん経験者	2月1日	11:55~12:45	
3	大島地区	南さつま市 加田田高実業高等学校	3年2クラス	20	対面	授業	がん経験者	12月18日	8:55~9:45	
4	大島地区	日置市 宮上実業高等学校	1年2クラス	35	対面	授業	がん経験者	1月12日	10:00~10:50	
5	大島地区	鹿児島市 鹿児島実業高等学校	1年2クラス	71	対面	授業	がん経験者	12月5日	15:50~16:40	
6	大島地区	鹿児島市 鹿児島特別支援学校	中1・3年2クラス	6	対面	授業	医療従事者	12月11日	13:25~14:15	
3. 職員研修	地区	学校名	対象学年	人数	実施方法	実施形態	講師の職種	派遣日	時間	
1	大島地区	鹿児島市 青田南中学校	職員研修	30	対面	講演	がん経験者	12月25日	13:00~13:50	
4. 学校保健委員会	地区	学校名	対象学年	人数	実施方法	実施形態	講師の職種	派遣日	時間	
1	大島地区	南さつま市 夜志小学校	学校保健委員会	40	対面	講演	がん経験者	1月22日	15:40~16:40	

③ 保健部局や地域の専門機関等との連携

ア がん教育外部講師研修会への協力

- ・ 開催期日 令和5年7月29・30日
令和5年9月16・17日
- ・ 対象 がん経験者・家族，医療従事者
- ・ 講師 国立がん研究センター副本部長，いまきいれ総合病院緩和医療科部長，NPO 法人がんサポートかごしま理事長，県くらし保健福祉部健康増進課，県教育委員会保健体育課
- ・ 参加者 7月：10人 9月12人 合計：22人

イ がん教育リーフレットの活用促進

令和4年度、県くらし保健福祉部健康増進課が、がん教育の授業に活用できる「鹿児島県版の副教材」を作成し、令和5年度も新入生分の配布を行った。県教育委員会では、がん教育の授業において、本教材が積極的に活用されるよう各研修会等で周知を図った。



【小学校版】



【中学校版】



【高等学校版】

〈リーフレット活用率（小・中・高等学校）〉

	令和5年	令和4年度
リーフレットを活用した学校の割合	85.9%	81.2%

(2) モデル校における取組

がん教育の推進を図るモデル校については、昨年度からがん教育の普及・啓発を図るため、県内小・中・高等学校の各1校ずつ3校を設定し、公開授業や授業研究等を通して、発達段階に応じたがんに対する正しい理解をめざした授業や外部講師の活用等について検証を行っている。

【小学校】

- ・ 学校名 阿久根市立折多小学校
- ・ 公開授業期日 令和5年9月29日
- ・ 実施教科 第5学年「学級活動」
- ・ 実施内容 がん経験者を講師とした公開授業及び授業研究
- ・ 参加者対象（数） 阿久根市内の教職員(36人)



【中学校】

- ・ 学校名 伊仙町立犬田布中学校
- ・ 公開授業期日 令和5年12月11日
- ・ 実施教科 第3学年「道徳科」
- ・ 実施内容 がん経験者を講師とした公開授業及び授業研究
- ・ 参加者対象（数） 伊仙町内の教職員(37人)



【高等学校】

- ・ 学校名 鹿児島県立甲南高等学校
- ・ 公開授業期日 令和5年12月13日
- ・ 実施教科 第1学年「保健」
- ・ 実施内容 医療従事者を講師とした公開授業及び情報交換会
- ・ 参加者対象（数） 鹿児島県内の教職員(22人)



2. 事業の達成度について

(1) 自治体における取組

- ・ 教職員を対象とした研修会や県健康教育研究大会におけるがん教育分科会の実施、モデル校の小・中・高等学校各1校の設置など、様々な場面で講義や研究協議を行うことで、がん教育の普及・啓発につながった。
- ・ 県くらし保健福祉部健康増進課が作成した、がん教育の授業に活用できる「鹿児島県版の副教材」を広く周知し、積極的な活用を図るとともに、医療関係者及びがん経験者等を対象としたがん教育外部講師研修会への協力を通して、より効果的ながん教育の推進を図ることができた。
- ・ 令和3年度に作成した県がん教育外部講師リストを更新するとともに、県内の小・中・高・特別支援学校に32回、がん教育外部講師の派遣を行い、医療関係者やがん経験者の声を届け、がんについての正しい理解、命の大切さについて深く考える機会につなげることができた。

【研修会参加者の感想抜粋】

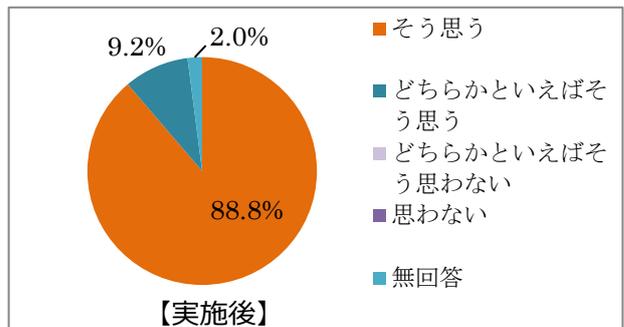
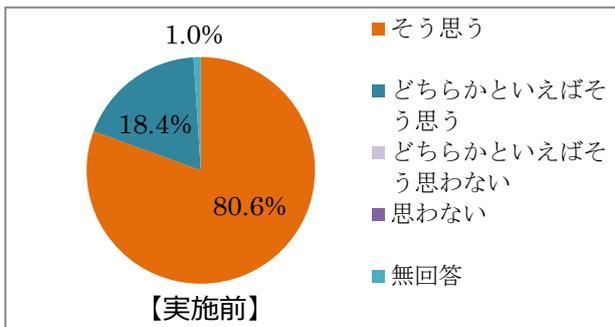
- ・ がん教育については、校内でも捉え方に温度差があるので、職員研修会等で、今回の講義を参考にして、職員の意識を高めていきたい。
- ・ がん教育の意義やモデル校の取組から、発達段階に応じて効果的にがん教育を進めるための校内体制や外部講師との連携の在り方について、改めて学ぶ機会となった。

(2) モデル校における取組

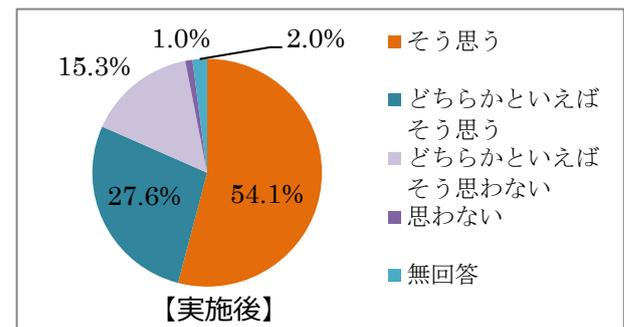
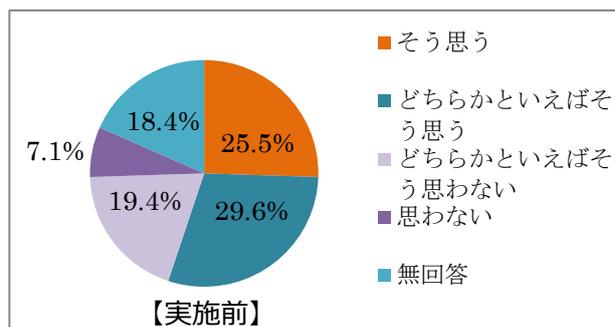
モデル校における公開授業や授業研究等を通して、発達段階に応じたがん教育授業の在り方等について検証を行うことができた。子供たちの感想やアンケートの結果からもがんや命、健康な生活についての意識の変容が見られた。

【児童生徒のアンケート結果（モデル校3校）】

<Q1-a がんの学習は健康な生活を送るために重要だ>



<Q3-f がんになっても生活の質を高めることができる>



【授業の感想（子供の感想抜粋）】

- ・ いのちが大切なもの、がんはとても怖くて苦しいけど一生懸命生きている人がいることを知りました。
- ・ かみづるさんはもうこの世にはいないけど僕たちがしっかりいのちのバトンを受け取り、がん患者さんも楽しく暮らせる世の中になりたいと思いました。

3. 今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題など）

- ・ 本年度は、令和3年度に作成した鹿児島県がん教育外部講師リストを更新し、様々な研修会等で周知することで、がん教育における外部講師活用の充実を図ることができた。
また、昨年度から新たに位置付けたがん教育に関する研修会や講義を継続して実施することを通して、多くの教職員や外部講師に対して学習指導要領に基づくがん教育について周知することができた。
次年度以降も研修会等を実施し、教職員や外部講師の資質向上につなげるとともに、県内のがん教育のさらなる普及・啓発に努める必要がある。

4. モデル校以外での取組について（課題や今後整理すべき事項など）

- ・ 本年度は、がん教育に係る外部講師の派遣を32回（37校）実施したが、学校と外部講師の日程調整を県教育委員会が行うと時間がかかり、外部講師派遣の時期が遅れてしまった。今後は、外部講師派遣に係る文書発送等の時期を早くしたり、外部講師と学校が直接日程調整を行ったりするなど、よりスムーズに外部講師派遣が行えるようにする必要がある。
- ・ がん教育研修会等で、がん教育について、学習指導要領に基づいた指導法や実施する上での留意事項、外部講師の活用等に関する講義を通して、学校での取組の充実及び教職員等の資質の向上を今後も図るとともに、本年度、更新した鹿児島県がん教育外部講師リストの周知及び活用を促す必要がある。
- ・ 鹿児島県くらし保健福祉部と今後も連携し、がん教育外部講師研修会の講義を通して、外部講師の方々に学校教育についての理解を深めていただくとともに、がん教育リーフレットの活用による各学校のがん教育の充実に継続的に取り組む必要がある。

がん教育等外部講師連携支援事業 事業成果報告書

1. 事業の具体的内容について

(1) 自治体における取組

① 協議会について

1. 構成員

14名

－内訳－

- ・医師（内科）2名
- ・歯科医師1名
- ・薬剤師1名
- ・がん患者の会（外部講師）1名
- ・保護者1名
- ・神戸市健康局2名
- ・学校長3名（小学校、中学校、高等学校）
- ・養護教諭1名
- ・教育委員会事務局2名

2. 開催時期、検討内容

○第1回協議会

日時：令和5年6月15日（木）16:00～17:00

会場：神戸市総合教育センター806号室

出席人数：13名（構成員9名、事務局4名）

－協議内容－

- ・令和4年度がん教育の取組報告
- ・令和5年度がん教育等外部講師連携支援事業の説明
- ・令和5年度がん教育の計画
 - がん教育研修会
 - 推進校の選定
 - 外部講師連携
- ・神戸市作成リーフレットの活用について

○第2回協議会

○第2回

日時：令和5年11月13日（月）14:05～16:15

会場：神戸市立横尾中学校

出席人数：17名（構成員12名、事務局1名、関係教職員4名）

－協議内容－

- ・がん教育研修会報告
- ・推進校（横尾中学校）での取組について報告
- ・推進校（淡河中学校）での取組予定について報告
- ・「がん教育 外部講師 協力団体紹介一覧」紹介

- ・今後のがん教育推進の報告について（意見交換）
- ・ふりかえりアンケート依頼

② 教育委員会としての取組

- ・市立中学校に向け、様々な機会を利用してがん教育推進校について説明し、立候補を募った。
- ・推進校2校の取組に対し、外部講師の派遣のほか、教材等の購入などの支援を行った。また、過去の推進校に対し、取組が継続できるよう、必要な教材購入の支援をおこなった。
- ・がん教育実施のヒントを得ていただくことを目的に、がん教育研修会を実施した。①授業者になりうる教職員等ががんに対する正しい知識を得る、②外部講師によるがん教育実施に関する理解の推進といった効果が得られた。
- ・リーフレット『KOBE がんガイド 2024 中学校版・がんについて考えよう』を作成（令和6年度市立中学校2年生全員に配布）。

③ 保健部局や地域の専門機関等との連携

- ・「神戸市がん対策懇話会（神戸市健康局主催）」に関係部局として出席し、がんに関する教育を含め、神戸市のがん対策を進めるにあたり、がんの専門家、学識経験者や関係機関から、がん対策の在り方等への助言を得た。
- ・リーフレット『KOBE がんガイド 2024 中学校版・がんについて考えよう』作成にあたり、最新データの提供や健康局としての意見をいただいた。

(2) モデル校における取組

① 神戸市立横尾中学校の取組 がん教育講演会

1. 日 時 令和5年11月13日（月）14:05～

2. 場 所 体育館

3. 対 象 2年生、教職員

4. 内 容 講演会 演題 「ひげじいから あなた（きみ）たちに 伝えたいこと」

講師 NPO法人腺友倶楽部（前立腺がん患者・家族の会）武内 務 氏

※講演会の前に保健体育科の授業として、がんに関する調べ学習を実施。講演会後に調べ学習発表会を実施し、学びを深めた。



調べ学習発表会 使用スライド（抜粋）	
<p>がんの治療法</p> <p>1 手術 がん組織や周りのリンパ節を取り除きます。また、取り除いた臓器や器官の再建などの処置が行われます。</p> <p>2 薬物治療法 がん細胞の増殖を防ぐ治療法で、成長を遅らせたり、転移や再発を防いだりします。</p> <p>3 放射線治療法 細胞が分裂して増えるときに必要な遺伝子に作用して、細胞が増えないようにしたり、がん細胞を消滅させたり、少なくしたりします。</p>	<p>どうすればがんを早い段階で見つけられるのか</p> <p>・がんを完治するために早期発見・早期治療が大事!!!!!!</p> <p>・そこで、早い段階でがんを見つける必要がある。しかし...</p> <p>・がんにかかったとしても、最初は自覚症状がない</p> <p>・そのため、早い段階でがんを見つけるためにあることをする必要があります</p>
<p>生活習慣→改善できる！</p> <p>具体的には...</p> <ul style="list-style-type: none"> ・喫煙、飲酒を控える ・塩分を摂りすぎない ・野菜、果物を食べる ・適度な運動習慣 <p>細菌・ウイルスからくるがんを予防するには...</p> <p>↓</p> <p>がん検診を受診し、早期発見・早期治療を！</p>	<p>まとめ</p> <p>がんはうつらない(がんになった人に近いても大丈夫) がんになっても元気に暮らしている人もいる 早く見つかるほど治る確率が高くなる</p> <p>がん＝死じゃない</p>

② 神戸市立淡河中学校の取組 学校保健委員会 「いのちについて考えよう～がん教育を通して～」

○講演会

1. 演 題 「いのちについて考える 小児がんの子どもをもったお母さんのお話
～だれもが暮らしやすい社会づくり」

講師 チャイルド・ケモ・ハウス

田村 亜紀子 氏

2. 日 時 令和5年11月28日(火) 13:00～

3. 場 所 体育館

4. 対 象 全校生徒、教職員



○がんに関する書籍活用プロジェクト

- ① 学校図書館に「がん教育コーナー」を設置

日 時 令和5年12月1日(金)～

対 象 学校図書館利用者

- ② ～学校司書による書籍とのふれあい～

日 時 令和5年12月7日(木)

対 象 1年生、2年生



(3) その他

- ① リーフレット「KOBE がんガイド 2024 年度版・がんについて考えよう」の作成

・ねらい：中学生が学校で学習した「がん」のことについて、保護者と話し合うきっかけとして活用することをイメージして作成している。「がん」についての正しい知識をもとに、早期発見、早期治療への意識を高められるようにというねらいがある。

- ② 「がん教育実践事例集 Vol. 9」の作成

・ねらい：がん教育推進校の取組を紹介することで、次年度の各校におけるがん教育の取組の活性化を図っている。神戸市立の全学校園に配布予定。

2. 事業の達成度について

【目標に対しての成果】

○教職員及び外部講師に対する研修会の開催

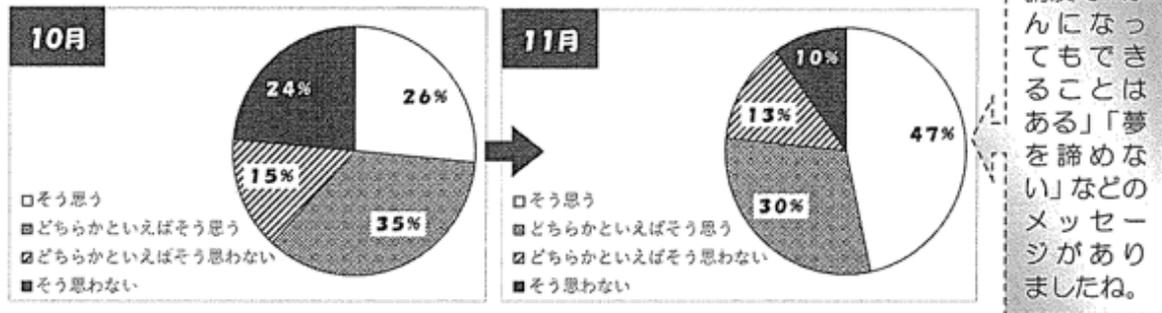
- ・外部講師登録者による講演会と、事業担当者によるがん教育取組に関する資料・教材の紹介を行う研修会を実施した。
- ・研修会後のアンケートには、「なぜ『生活習慣病予防』ではなく『がん教育』なのか」「発達段階や家庭の状況など個別の対応が必要な点に難しさを感じる」等、消極的な感想もあったが、「今の日本のがんの現状を鑑み、一歩踏み込んだ取組が必要」「何も知らずに後悔することが少なくなるためにも、『正しく』知ることの重要性がある」等、がん教育の必要性を実感し前向きにとらえている感想が多かった。来年度の取組に関して具体的に意欲を示した参加者もいた。
- ・子育て世代でのがん経験者による講話を通し、授業者としての視点だけでなく、「がん患者・がん患者家族の支援者」としての視点での学校の役割について考える機会にもなった。

○推進校での研究授業、学校保健委員会等の成果について発信

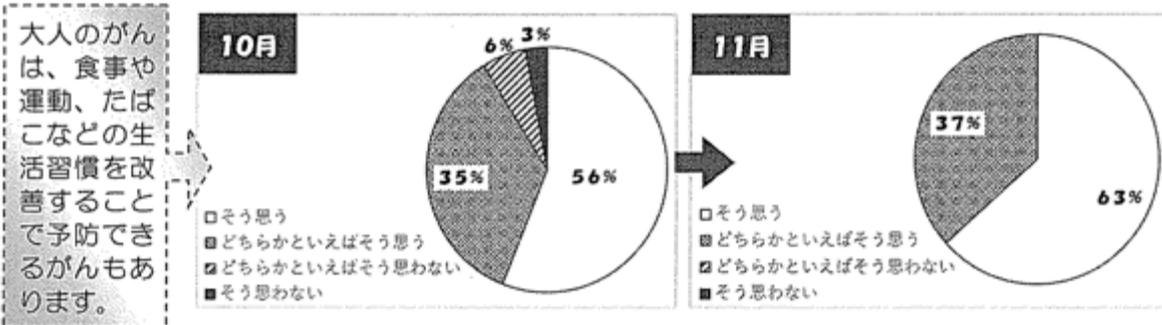
- ・推進校2校での取組等を掲載した「がん教育実践事例集 Vol. 9」を作成し、年度末に神戸市立学校園に配布予定である。今年度の推進校の取組においては、Vol.1～8の内容も参考にしており、来年度以降についても活用されることが期待される。
- ・また推進校の取組前後のアンケート結果も紹介し（下図参照）、行動変容への意欲、がん罹患することに対するイメージ、がん患者に対する共感的理解などの面で前向きな変化が見られていることも示しており、各校での取組の後押しになることを期待している。

図：推進校における生徒の意識の変化（「事例集」より抜粋）

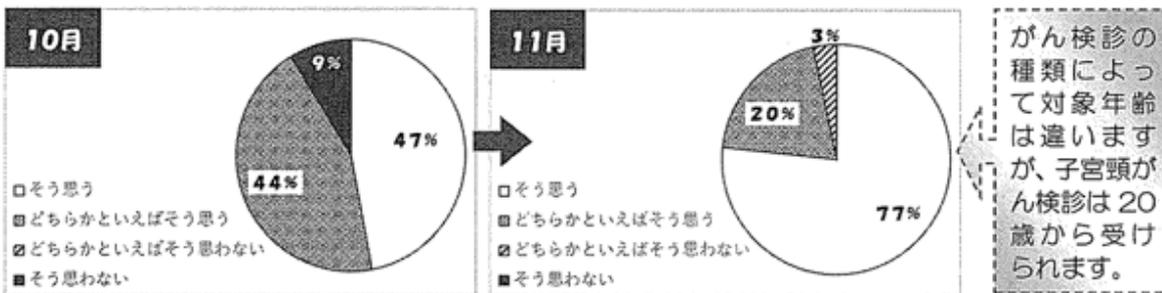
Q. がんになっても生活の質を高めることができる



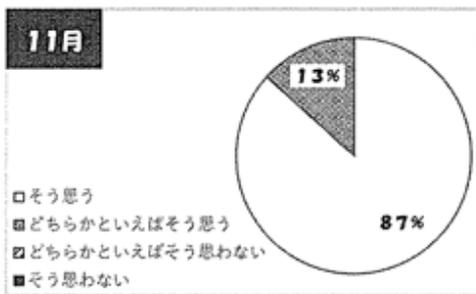
Q. 日頃から食事や運動など健康的な体づくりに取り組もうと思う



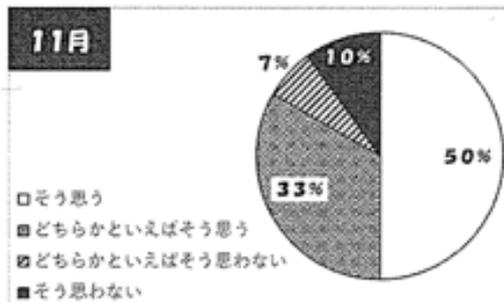
Q. がん検診を受けられる年齢になったら検診を受けようと思う



Q. がんになっている人も過ごしやすい世の中にしたい



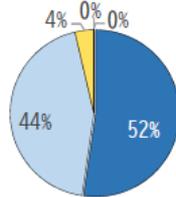
Q. がんと健康について、まずは身近な人から話ろうと思う



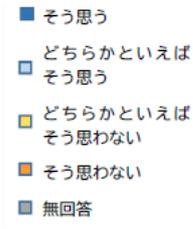
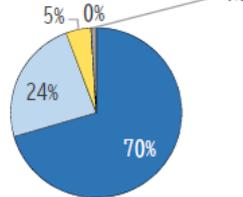
生徒の意識の変化：事前・事後アンケートの比較（抜粋）

Q. 日頃から、バランスの良い食事や適度な運動を行うなど健康な体づくりに取り組もうと思う。

事前アンケート

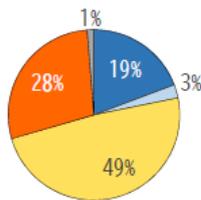


事後アンケート

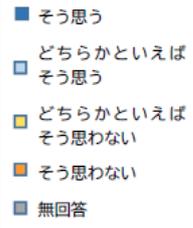
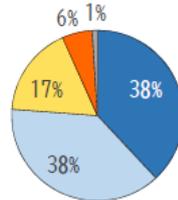


Q. がんになっても生活の質を高めることができる。

事前アンケート

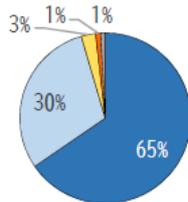


事後アンケート

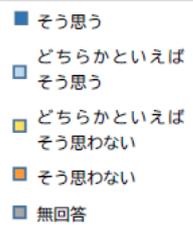
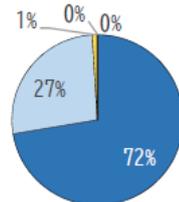


Q. がんになっている人も過ごしやすい世の中にしたいたい。

事前アンケート

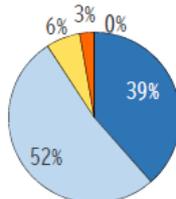


事後アンケート

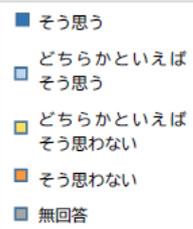
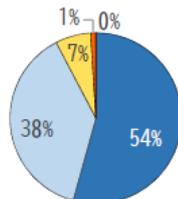


Q. がんと健康について、まずは身近な家族から話ろうと思う。

事前アンケート



事後アンケート



ーがんに関する認識の変化ー

- 私の周りでもがんになった人が何人かいましたが、全員亡くなってしまっていたので、がんになると亡くなるものだとばかり思っていました。そして、がんは生活習慣が悪いとなるものだと思いましたが、実は原因不明のものもあると知り、とても驚きました。それと同時に、やはりたばこは健康に大きな害をもたらし、吸っている人だけでなく周りも巻き込むという、とてもおそろしいものだと思います。

○外部講師リストの更新

- ・今年度新たに3団体に事業説明を行い、リストに追加した。

○がんリーフレットの作成

- ・保健部局に協力いただき、新しい統計情報を使用し、神戸市のがん検診やHPVワクチン接種に関する情報も掲載して作成済み。令和6年度の市立中学校2年生に配布予定である。

3. 今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題など）

○外部講師の充実に向けて

令和4年度は、外部講師の更新や研修について予定通りの実施ができなかったことが課題であった。今年度は外部講師登録のリストを更新することができたが、外部講師向けの研修については未だ課題がある状況である。来年度は推進校で外部講師を活用した授業の際、他の外部講師にも情報提供し、講師の授業を参観できる機会にできるようにしていく。

○がん教育に対する教職員の意識への働きかけ

今年度実施した「第2回がん教育関係者会議」において、推進校で中心的役割を担った教職員から「なぜがん教育なのか」「子供自身、あるいは家族ががんで苦しんでいる可能性がある中で、がんを取り扱うことに葛藤がある」といった提起がなされた。がん教育研修会の感想からも同様の疑問や葛藤を抱えている教職員が市全体としては多く存在すると思われる、学校全体で取り組むべきがん教育の取組を躊躇する一因となっていることが考えられる。管理職や保健主事のような、各学校のカリキュラム・マネジメントにおいて主導的立場になりうる職員を中心に、がん教育の目的および成果について啓蒙していく必要がある。

4. モデル校以外での取組について（課題や今後整理すべき事項など）

各校の健康課題は種々様々で、その校の生徒にとっての喫緊の課題をテーマとした健康教育が行われるべきだと考える。がん教育以外にも多くの取組が求められている学校の現状を考えると、モデル校以外での取組を広げていくことは容易ではない。

年度初めに各校より「学校保健計画」が提出されるが、その中で示される「学校保健委員会」のテーマが、各校がその年度に優先する健康課題ということになる。そこで、「がん」をテーマにしている学校をピックアップし、早い段階で支援や協力を含む情報提供を行う。取組に意欲的な学校を把握し支援することで、実践の裾野を広げていきたい。